

(様式第10)

川学法第526号
平成26年10月3日

厚生労働大臣

殿

開設者名 学校法
理事長

川崎医科大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和23年法律第205号）第12条の3第の規定に基づき、平成25年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒701-0192 岡山県倉敷市松島577番地
氏 名	学校法人 川崎学園

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

川崎医科大学附属病院

3 所在の場所

〒701-0192 岡山県倉敷市松島577番地 電話(086)462-1111

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1)内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1血液内科 2神経内科 3肝臓・胆のう・膵臓内科 4食道・胃腸内科 5循環器内科 6呼吸器内科 7腎臓内科 8糖尿病・代謝・内分泌内科 9新生児内科 10腫瘍内科 11リウマチ科 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1消化器外科 2胸部・心臓血管外科 3呼吸器外科 4乳腺・内分泌外科 5小児外科	
6形成・美容外科 7	
8	9 10 11 12 13 14
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	14放射線治療科
⑬麻酔科	⑭救急科					

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名	
1歯科口腔外科 2矯正歯科 3 4 5 6 7	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	リハビリテーション科	2臨床検査科	3病理診断科	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21						

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
28床	床	床	床	1154床	1182床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年9月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	407人	36人	412.4人	看 護 補 助 者	141人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	2人	5人	2.5人	理 学 療 法 士	41人	臨床検査技師	97人
薬 剤 師	43人	3人	44.3人	作 業 療 法 士	37人	衛生検査技師	0人
保 健 師	6人	0人	6人	視 能 訓 練 士	13人	そ の 他	0人
助 産 師	9人	2人	9.6人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	801人	24人	811.1人	臨 床 工 学 技 師	18人	医療社会事業従事者	9人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	4人	その他の技術員	32人
歯 科 衛 生 士	2人	0人	2人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	117人
管 理 栄 養 士	21人	0人	21人	診 療 放 射 線 技 師	39人	そ の 他 の 職 員	31人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年9月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	24人	眼 科 専 門 医	10人
外 科 専 門 医	36人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	7人
精 神 科 専 門 医	5人	放 射 線 科 専 門 医	14人
小 児 科 専 門 医	12人	脳 神 経 外 科 専 門 医	4人
皮 膚 科 専 門 医	4人	整 形 外 科 専 門 医	11人
泌 尿 器 科 専 門 医	7人	麻 酔 科 専 門 医	7人
産 婦 人 科 専 門 医	9人	救 急 科 専 門 医	6人
		合 計	156人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	631.5人	1.5人	633人
1日当たり平均外来患者数	1720.5人	35.6人	1756.1人
1日当たり平均調剤数	3181剤		
必要医師数	165人		
必要歯科医師数	3人		
必要薬剤師数	40人		
必要(准)看護師数	376人		

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	(有)・無
集中治療室	425.0m ²	鉄筋コンクリート	病床数	12床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 163.98m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	16床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 44.07m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	125.8m ²		(主な設備) 日立生化学自動分析装置、糖尿病検査システム、全自動化学発光免疫測定装置、血液ガス分析装置			
細菌検査室	113.0m ²		(主な設備) 全自動細菌検査システム、全自動血液培養検査装置			
病理検査室	349.9m ²		(主な設備) 自動染色装置2台、自動封入装置、自動免疫染色装置2台、クリオスタット2台、密閉式自動包埋装置2台			
病理解剖室	159.1m ²		(主な設備) 電動上下動式解剖台、電動上下動式汚物流し付き所見台、ホルマリンガス室内滅菌中和装置、写真撮影装置			
研究室	7733.8m ²		(主な設備) 透過型電子顕微鏡、走査型電子顕微鏡、セルソーター、実験動物飼育装置、動物実験機器			
講義室	2541.0m ²		室数	13室	収容定員	1,670人
図書室	3199.0m ²		室数	1室	蔵書数	15.8万冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	67.3%	逆紹介率	58.6%
算出根拠	A: 紹介患者の数	13,345人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	14,400人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	3,170人	
	D: 初診の患者の数	24,544人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	活性化自己リンパ球移入療法	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 活性化自己リンパ球移入療法は、採血によって樹状細胞とリンパ球を採取し、試験管内でがん抗原(がん細胞、ペプチド抗原、ピロリン酸)を用いてリンパ球を活性化し、再度点滴でお身体にお戻りする治療である。(臨床腫瘍科)			
医療技術名	新規がんペプチドワクチンの臨床研究	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 標準治療に不応の食道癌、胃癌、大腸癌、胆嚢癌、肺がん、乳癌患者を対象に、がん抗原エピトープペプチドのカクテルをアナンダマイドによってエマルジョン化し皮下に投与して、腫瘍縮小効果と安全性について検討する研究治療である。(臨床腫瘍科)			
医療技術名	ドクターヘリ導入促進事業	取扱患者数	424人
当該医療技術の概要 当院救命救急センターにドクターヘリを岡山県からの委託により配備し、救急患者の救命率向上、広域救急患者搬送体制の向上を図っていく。(救急科・高度救命救急センター)			
医療技術名	肺癌に対するNY-ESO-1ペプチドワクチンを用いた治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 癌特異的に発現するがん精巢抗原NY-ESO-1の免疫細胞認識部位のペプチドを合成して、患者の腫瘍免疫能を高めることを目的とした。これによって肺癌治療をめざした。(呼吸器内科)			
医療技術名	肺癌に対する抗CCR4抗体(モガリズマブ)を用いた抗体免疫療法	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 癌局所の免疫細胞には、免疫を抑制する制御性T細胞が活性化して多数存在する。この細胞を抗CCR4抗体で制御することによって、患者の腫瘍免疫能を高めることをめざした治療である。(呼吸器内科)			
医療技術名	内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 静脈を鬱滞性潰瘍や皮膚炎などの下肢静脈瘤重症例に対し、その原因となる不全穿通枝を健常皮膚部に2-3cmの小切開を加え、筋膜を切開、筋膜下層を剥離した後、硬性内視鏡を腹膜下腔に留置し、内視鏡を確認しながら不全穿通枝を同定し、切離する。(心臓血管外科)			
医療技術名	自己血回収器具(Cell Saver)を用いた術中自己血回収	取扱患者数	130人
当該医療技術の概要 術中に自己血回収器具(Cell Saver)を使用し出血を回収。無菌的に小型遠心式洗浄器を用いて赤血球を集積、洗浄し赤血球濃厚液として回収。これを自己血として使用する。(心臓血管外科)			
医療技術名	気管内治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 悪性および良性疾患による気道狭窄や気管瘻に対して全身麻酔下に腫瘍の切除や気管支拡張術やステントを留置し気道を確保するものである。癌性気管狭窄ならびに術後気管支狭窄に対して経気管支的気道拡張術およびステント留置を2例に施行した。(呼吸器外科)			
医療技術名	間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 間質性膀胱炎は蓄尿時の膀胱痛および頻尿を主症状とする疾患である。近年その患者数は増加傾向にあるが有効な診断法、治療法がないのが現状である。唯一その中で、診断と治療を兼ねた方法が腰椎麻酔下の水圧拡張術である。(泌尿器科)			
医療技術名	前立腺癌に対する腹腔鏡下根治的前立腺全摘除術	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 局所限局性前立腺癌に根治的治療である前立腺全摘除術を腹腔鏡下で行い、低侵襲性と拡大視野による良好な制癌効果が期待できる。(泌尿器科)			
医療技術名	腎細胞癌に対する腹腔鏡下腎部分切除術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 小径の早期腎細胞癌に対して腹腔鏡下腎部分切除術を行うことで腎温存と低侵襲性の両方が期待できる。(泌尿器科)			

医療技術名	膀胱癌に対する腹腔鏡下膀胱全摘除術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 筋層浸潤性膀胱癌に根治的治療である膀胱全摘除術を腹腔鏡下で行い、低侵襲性と無血野での良好な制癌効果が期待できる。(泌尿器科)			
医療技術名	腎盂尿管移行部狭窄症に対する腹腔鏡下腎盂形成術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 腎盂尿管移行部狭窄症に対して腹腔鏡下腎盂形成術を行うことで低侵襲性が期待できる。(泌尿器科)			
医療技術名	骨髄内臍帯血移植ミニ移植	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 同種対へ移植の最大の欠点は、生着不全が他の移植ソースに比して多いことであるが、これを臍帯血を直接骨髄内に注入することによりより確実に早期の生着を図る治療法である。(血液内科)			
医療技術名	HLA2座以上不一致血縁者間造血幹細胞移植	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 通常のいしょくでは、HLAを合致させて移植するが、治療することが困難な血液疾患を、HLAをあえて2座以上不一致させて、ドナー細胞の免疫による腫瘍の排除を図る治療法である。(血液内科)			
医療技術名	脂質異常症における遺伝子診断	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 脂質異常症の病因検索として、患者の遺伝子解析を行い、診断・治療に役立てる。(糖尿病・代謝・内分泌内科)			
医療技術名	1型糖尿病におけるHLAの解析診断	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要 1型糖尿病・劇症型糖尿病の診断補助として、HLA(組織適合抗原)の解析を行い、正確な診断を下すとともに、インスリン強化療法の早期導入に役立てる。(糖尿病・代謝・内分泌内科)			
医療技術名	持続皮下グルコース測定(CGM)	取扱患者数	52人
当該医療技術の概要 主に1型糖尿病症例に対し、1日288回×3日連続で皮下留置センサーにて血糖のモニタリングが可能となった。より詳細な血糖変動の把握が可能である。(糖尿病・代謝・内分泌内科)			
医療技術名	皮下インスリン持続静注療法(CSII)	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 精密なポンプを利用した、インスリン持続皮下注入による血糖のより厳格な管理が可能となる。主に1型糖尿病、糖尿病合併妊娠症例が対象となる。(糖尿病・代謝・内分泌内科)			
医療技術名	経頭蓋的磁気刺激法による脳神経機能診断	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要 経頭蓋的磁気刺激法は、非侵襲的に錘体路の機能を評価する方法であり、多発性硬化症や神経変性疾患等の診断に有用である。(神経内科)			
医療技術名	単一筋線維筋電図による神経・筋疾患の診断	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 単一筋線維筋電図は、神経接合部における伝達障害の最も感度の高い検査法であり、重症筋無力症の診断に有用である。(神経内科)			
医療技術名	遺伝性神経・筋疾患の遺伝子診断	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 筋ジストロフィー、遺伝性ニューロパチー、神経変性疾患(脊髄小脳変性症、パーキンソン病)を対象として、FISH法、サザンブロット法、PCR法等による遺伝子診断を行う。(神経内科)			
医療技術名	眼瞼痙攣、痙性斜頸に対するボツリヌス治療	取扱患者数	220人
当該医療技術の概要 眼瞼痙攣、Meige症候群、痙性斜頸を対象として、ボツリヌス毒素の局所注射による治療を行っている。(神経内科)			

医療技術名	神経変性疾患に対する経頭蓋磁気刺激療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 パーキンソン病、脊髄小脳変性症などの神経難病を対象として、神経細胞に磁気刺激を与えることにより、神経機能の改善をはかる治療法。(神経内科)			
医療技術名	髄液漏出症に対する自家血パッチ療法	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 髄液漏出症に対して、患者の血液を採取し、それを脊髄硬膜外に注入し、髄液の漏出箇所をパッチし、治療する方法(脳神経外科)			
医療技術名	神経内視鏡による手術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 神経内視鏡を使用して脳室開放術、腫瘍生検術、脳内血腫除去術を施行する(脳神経外科)			
医療技術名	脳動静脈奇形に対するOnyx塞栓術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 脳動静脈奇形(AVM)手術前に新しい塞栓物質であるOnyxを使用して塞栓する。その後安全にAVMを摘出する(脳神経外科)			
医療技術名	遺伝子増幅法を用いた肺炎マイコプラズマ、肺炎クラミジア感染症の迅速診	取扱患者数	256人
当該医療技術の概要 全国の医療機関から依頼され、real-time PCR法を用いて、非定型細菌感染症の診断と菌量を測定している。(小児科)			
医療技術名	遺伝子シーケンス法を用いたマクロライド耐性マイコプラズマの薬剤感受性	取扱患者数	39人
当該医療技術の概要 全国の医療機関から依頼され、マイコプラズマのマクロライド感受性を遺伝子シーケンス法を用いて、迅速に診断している。(小児科)			
医療技術名	遺伝子増幅法を用いた百日咳の迅速診断	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 LAMP法およびreal-time PCR法を用いて、百日咳の診断と菌量を測定している。(小児科)			
医療技術名	遺伝子増幅法を用いたエルシニア感染症の迅速診断	取扱患者数	59人
当該医療技術の概要 LAMP法を用いて、エルシニア感染症の診断をしている。(小児科)			
医療技術名	発熱性好中球減少症のPCR法を用いた網羅的原因検索	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要 抗がん剤の投与を受けた好中球減少時に、発熱、原因不明熱の細菌・真菌・ウイルスを含めた網羅的な原因検索をPCR法を用いて迅速に行っている。(小児科)			
医療技術名	新生児遷延性肺高血圧症に対する一酸化窒素(NO)吸入療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 生後間もない新生児の遷延性肺高血圧症に対して、肺血管拡張剤の経静脈的投与ではなく人工呼吸器の回路より一酸化窒素の吸入を行うことにより肺血管拡張を期待する治療。(新生児科)			
医療技術名	漏斗胸に対するNuss手術	取扱患者数	52人
当該医療技術の概要 ステンレスバーを脇の小切開創から挿入し、胸壁を持ち上げる方法で従来法と比較すると、手術時間が短く、出血量も少なく、傷も目立たない低侵襲手術。(小児外科)			
医療技術名	腹腔鏡下鼠径ヘルニア根治術(LPEC法)	取扱患者数	64人
当該医療技術の概要 臍から腹腔鏡を挿入し、腹腔内から観察しながら、腹膜症状突起の根部(ヘルニア嚢)の結紮を行います。従来法と比較すると創傷が小さく、さらに反対側開存の検索と治療が同時に可能である。(小児外科)			

医療技術名	小児鏡視下手術	取扱患者数	162人
当該医療技術の概要 小児では体が小さいため技術的には難しいが、傷が小さくできる・手術後の痛みが少ない・術後の回復が早いなどの利点がある。(小児外科)			
医療技術名	広汎性子宮頸部切除術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 子宮頸癌治療として、子宮温存・妊孕能温存をはかるものである。(産婦人科)			
医療技術名	乳がんに対する皮下乳腺全摘+ティッシュ・エクスペンダー充填術	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 広範な乳管内の癌進展のために乳房温存が不可能な症例に対し、乳房の整容性を保つための術式。(乳腺甲状腺外科)			
医療技術名	自己血回収器具を用いた術中自己血回収	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 術中に自己血回収器具を使用し出血を回収。無菌的に小型遠心式洗浄器を用いて赤血球を集積、洗浄し赤血球濃厚液として回収。これを自己血として使用する。(整形外科)			
医療技術名	インストルメンテーションを用いた脊柱再建術	取扱患者数	60人
当該医療技術の概要 変形性脊椎疾患、脊椎の外傷、転移性脊椎腫瘍に対してインストルメンテーションを用いて脊椎再建術を行なう。変形矯正とともに強固な固定が得られ、早期離床が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	内視鏡視下脊椎手術	取扱患者数	57人
当該医療技術の概要 内視鏡視下手術手技を用いて、後方進入腰椎椎間板ヘルニア摘出術、腰椎椎弓切除術、頸椎椎弓切除術を行なう。この方法は最小侵襲手術手技であり、神経合併症を回避することができ、早期の離床及び社会復帰が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	内視鏡視下脊椎前方固定術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 内視鏡視下手術手技を用いて、胸腰椎前方固定を行なう。この方法は最小侵襲手術手技であり、神経合併症を回避することができ、早期の離床及び社会復帰が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	経皮的椎間板摘出器具による脊椎炎持続洗浄療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 化膿性脊椎炎に対して、経皮的に病巣搔爬し、持続洗浄を行なう。この方法は最小侵襲手術手技であり、早期離床が可能となる。(整形外科)			
医療技術名	脊髄誘発電位測定	取扱患者数	33人
当該医療技術の概要 脊椎・脊髄の手術において脊髄誘発電位をモニタリングすることで安全に手術が行なえる。(整形外科)			
医療技術名	切断指(趾)に対する顕微鏡視下手術	取扱患者数	17人
当該医療技術の概要 手指の組織欠損、足趾欠損に対して、顕微鏡視下でしか確認できない指動静脈や指神経を吻合、縫合し、再接着を行い本来の指趾機能を回復させる。(整形外科)			
医療技術名	関節鏡視下手術	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 関節鏡を用いて股関節唇障害や膝半月板損傷、棚障害、関節鼠に対して、鏡視下に縫合術や切除・摘出術を行なう。さらに関節内骨折に対する整復固定術や靭帯再建術も関節鏡視下に行なう。侵襲が少なく、術後の機能回復が早い。(整形外科)			
医療技術名	三次元再構築画像による股関節疾患の診断及び治療	取扱患者数	109人
当該医療技術の概要 術前に骨盤から足までのCTを撮影し、それを3次元的に再構築したうえで、術前計画を行う。その後人工股関節置換術をナビゲーションを用いて施行する。(整形外科)			

医療技術名	マイクロサージャリーを利用した各種血管柄付き自家複合組織移植	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 マイクロサージャリーの技術を用いて、全身の組織欠損に対してさまざまな血管柄付き複合組織移植術を行った。(形成外科)			
医療技術名	口唇顎口蓋裂に対する集学的治療	取扱患者数	120人
当該医療技術の概要 口唇顎口蓋裂患者に対し、形成外科、耳鼻科、矯正歯科、言語療法士らによる集学的治療を行った。(形成外科)			
医療技術名	小耳症に対する自家肋軟骨移植術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 小耳症患者に対し、自家肋軟骨移植術を行い、良好な耳介の再建を行った。(形成外科)			
医療技術名	顔面多発骨折に対する観血的整復固定術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 顔面多発骨折に対し、咬合、開口、眼球運動機能の改善と、整容的な改善を行った。(形成外科)			
医療技術名	嚙下障害に対するボツリヌス毒素を用いた治療	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要 球麻痺等による輪状咽頭筋弛緩不全をきたしている症例に対してBotox®を施行する。(リハビリテーション科)			
医療技術名	高次脳機能障害の社会復帰を目的としたリハビリテーション治療	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 高次脳機能障害患者の社会復帰のため個別/集団リハを行い、復帰率を高める。(リハビリテーション科)			
医療技術名	先端医療・介護機器を用いたリハビリテーション推進事業	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 ロボットスーツHAL®を脳卒中をはじめとする身体障害者に用い、機能回復ならびにADL向上に対する効果を検証。(リハビリテーション科)			
医療技術名	嚙下障害患者に対する電気刺激療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 嚙下障害患者の障害された嚙下関連筋に対して電気刺激を行い、機能回復を図る。(リハビリテーション科)			
医療技術名	磁性流動体ブレーキを用いた短下肢装具の開発	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 足継手の部分に磁性流動体ブレーキを用い、短下肢装具の高性能化を目指す。(リハビリテーション科)			
医療技術名	インターフェロン感受性遺伝子(IL28B遺伝子型)解析	取扱患者数	150人
当該医療技術の概要 C型慢性肝炎患者に対するペグインターフェロン+リバビリン治療効果予測の為に、上記遺伝子検査を行い、治療効果予測に準じたテーラーメイド医療を実践している。(肝・胆・膵内科)			
医療技術名	胸腔鏡下食道切除術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 食道がん手術を胸腔鏡、腹腔鏡下に行う低侵襲手術。(消化器外科)			
医療技術名	腹腔鏡下胃癌手術	取扱患者数	27人
当該医療技術の概要 胃癌手術を腹腔鏡補助下に行う低侵襲手術。(消化器外科)			
医療技術名	腹腔鏡下大腸切除術	取扱患者数	56人

当該医療技術の概要			
大腸癌手術を腹腔鏡補助下に行う低侵襲手術。(消化器外科)			
医療技術名	腹腔鏡下肝切除術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要			
肝臓癌(原発性、転移性)手術を腹腔鏡下に行う低侵襲手術。(消化器外科)			
医療技術名	腹腔鏡下胆道、膵切除術	取扱患者数	14人
当該医療技術の概要			
胆管癌、膵臓癌手術を腹腔鏡下に行う低侵襲手術。(消化器外科)			
医療技術名	緑内障インプラント手術	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要			
緑内障のインプラント手術は二十年以上前から試みられてきたが、成功例が少なかった。近年、材料の開発が進み、治療法として確立されつつあるところである。(眼科)			
医療技術名	シャンデリア硝子体手術	取扱患者数	369人
当該医療技術の概要			
シャンデリアは硝子体手術の際に眼内を照らす最新の機器であり、両手を使用する複雑な手術には特に有効である。(眼科)			
医療技術名	中性子捕捉療法(BNCT)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
頭頸部癌患者で手術、放射線および化学療法を行い治療不可能であった症例に中性子捕捉療法を行いよい結果を得ている。(耳鼻咽喉科)			
医療技術名	超選択的動注化学放射線療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要			
抗癌剤をより有効に注入するため、癌腫の支配血管へ直接抗癌剤を注入し、よい結果を得ている。(耳鼻咽喉科)			
医療技術名	前立腺MRI(3TMRI装置を用いたhigh b値拡散強調像)	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要			
3TMRI装置を用いたhigh b値拡散強調像は従来の撮像に比して、前立腺癌の病巣描出能を改善し、かつ非侵襲的に高い感度で有意癌と非有意癌を識別することができた。(放射線科(画像診断))			
医療技術名	膵・胆道MRI(空間選択的IRパルスを併用したシネダイナミックMRCP)	取扱患者数	46人
当該医療技術の概要			
空間選択的IRパルスを併用したシネダイナミックMRCPにより、生理的な肝外胆管内の胆汁の流れを非侵襲的に可視化し、肝外胆管内の逆行性の胆汁の流れが生理的な現象であることがわかった。(放射線科(画像診断))			
医療技術名	腎MRI(空間選択的IR pulseを併用した非造影MRI)	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要			
空間選択的IR pulseを併用した非造影MRIは、従来の撮像法において腎皮質測定が困難な腎機能低下症例においても、腎皮髄境界を明瞭化することで腎皮質測定を可能にし、非侵襲的に腎機能を評価することができた。(放射線科(画像診断))			
医療技術名	膵MRI(空間選択的IRパルスを併用したシネダイナミックMRCP)	取扱患者数	53人
当該医療技術の概要			
空間選択的IRパルスを併用したシネダイナミックMRCPは非侵襲的に膵液の流れの加齢による減少を示すことができた。(放射線科(画像診断))			
医療技術名	強度変調放射線治療	取扱患者数	13人
当該医療技術の概要			
コンピュータ制御で治療ビームの強度を最適化することにより、従来の照射方法よりも低侵襲で高い根治性を実現できる。早期癌のみならず、従来は治療困難であった進行癌に対しても有用性が期待される。(放射線科(治療))			
医療技術名	脳定位放射線治療	取扱患者数	5人

当該医療技術の概要			
専用の頭部固定具を用いて位置精度を高め、病変のみピンポイントで高線量を照射できる。転移性脳腫瘍などに有用で、単発病変なら手術と同等の成績が報告されている。(放射線科(治療))			
医療技術名	肺定位放射線治療	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要			
専用の体幹部固定具を用いて位置精度を高め、病変のみピンポイントで高線量を照射できる。3cm程度までの肺野病変であれば手術に匹敵する治療成績が得られる。入院は不要で、1週間の外来通院で治療が終了する。(放射線科(治療))			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍に対するホウ素中性子捕捉療法(臨床研究)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
悪性黒色腫、外陰部発生の乳房外パジェット病など従来の手術・放射線治療での制御が困難とされる癌腫に対する原子炉を用いたホウ素中性子捕捉療法の腫瘍効果および有害事象を倫理審査会承認のもと臨床研究として実施中。(放射線科(治療))(皮膚科)			
医療技術名	難治性頭頸部腫瘍に対するホウ素中性子捕捉療法(臨床研究)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要			
標準治療である手術・放射線治療・抗癌剤治療での制御が困難とされる難治性頭頸部腫瘍に対する原子炉を用いたホウ素中性子捕捉療法の腫瘍効果および有害事象を倫理審査会承認のもと臨床研究として実施中。(放射線科(治療))(耳鼻咽喉科)			
医療技術名	局所脳血流量の定量	取扱患者数	145人
当該医療技術の概要			
I-123 IMP SPECT と動脈採血による局所脳血流量(rCBF)の定量は、脳血流シンチグラフィによるイメージのみでは評価が困難な瀰漫性の病変に対して、客観的なデータを供給できる。(放射線科(核医学診療))			
医療技術名	アセタゾラミド負荷脳血流 SPECT 1日法	取扱患者数	22人
当該医療技術の概要			
脳血流SPECTの新しい画像再構成プログラム(quantitative SPECT: QSPECT)を用いて、同一日に連続して安静時と負荷時のデータを取得し脳循環予備能の評価を行う。(放射線科(核医学診療))			
医療技術名	赤血球膜異常症の病因解析、遺伝子診断	取扱患者数	53人
当該医療技術の概要			
赤血球膜異常症の病因解析において、走査電顕を用いた赤血球形態診断、膜蛋白分析、当該遺伝子解析を行い、病因の診断、治療選択に有効であった。(中央検査部)			
医療技術名	HIV-1の薬剤耐性遺伝子検査	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要			
HIV塩基配列を確認して、薬剤耐性獲得の有無を検証するのに有用であった。(中央検査部)			
医療技術名	白血病・リンパ腫関連遺伝子診断	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要			
PCR法および直接シーケンス法によって骨髄増殖性腫瘍のJAK2遺伝子診断をおこなった。またRT-nested PCR 法により、微小残存白血病細胞の検出を行い、臨床的な寛解の判定や再発の早期診断に有効であった。(中央検査部)			
医療技術名	救急毒劇物検査	取扱患者数	97人
当該医療技術の概要			
急性薬毒物中毒疑いの患者の血液、尿、胃洗浄液等を用いて服薬成分を迅速に分析・同定し、救急救命治療に貢献した。(中央検査部)			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第百六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	68人	・膿疱性乾癬	5人
・多発性硬化症	46人	・広範脊柱管狭窄症	6人
・重症筋無力症	73人	・原発性胆汁性肝硬変	67人
・全身性エリテマトーデス	264人	・重症急性膵炎	27人
・スモン	18人	・特発性大腿骨頭壊死症	75人
・再生不良性貧血	39人	・混合性結合組織病	24人
・サルコイドーシス	47人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	28人	・特発性間質性肺炎	9人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	239人	・網膜色素変性症	26人
・特発性血小板減少性紫斑病	98人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	39人	・肺動脈性肺高血圧症	5人
・潰瘍性大腸炎	279人	・神経線維腫症	11人
・大動脈炎症候群	31人	・亜急性硬化性全脳炎	1人
・ビュルガー病	60人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	22人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	5人
・脊髄小脳変性症	58人	・ライソゾーム病	2人
・クローン病	178人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	0人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1人
・悪性関節リウマチ	13人	・脊髄性筋萎縮症	3人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	213人	・球脊髄性筋萎縮症	8人
・アミロイドーシス	3人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	17人
・後縦靭帯骨化症	72人	・肥大型心筋症	7人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	35人	・ミトコンドリア病	6人
・ウェゲナー肉芽腫症	9人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	43人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	47人	・黄色靭帯骨化症	8人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	2人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	47人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・歯科外来診療環境体制加算
・歯科診療特別対応連携加算	・特定機能病院入院基本料 一般病棟7対1 精神病棟10対1
・臨床研修病院入院診療加算	・救急医療管理加算・乳幼児救急医療管理加算
・超急性期脳卒中加算	・妊産婦緊急搬送入院加算
・診療録管理体制加算1	・急性期看護補助体制加算
・療養環境加算	・重症者等療養環境特別加算
・無菌治療室管理加算1	・無菌治療室管理加算2
・緩和ケア診療加算	・精神科身体合併症管理加算
・摂食障害入院医療管理加算	・がん診療連携拠点病院加算
・栄養サポートチーム加算	・医療安全対策加算1
・感染防止対策加算1・感染防止対策地域連携加算	・患者サポート体制充実加算
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・ハイリスク妊娠管理加算
・ハイリスク分娩管理加算	・退院調整加算
・新生児特定集中治療室退院調整加算	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・データ提出加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・救命救急入院料1	・救命救急入院料4
・特定集中治療室管理料3	・新生児特定集中治療室管理料1
・小児入院医療管理料1	・回復期リハビリテーション病棟入院料2
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・植込み型除細動器移行期管理料
・高度難聴指導管理料	・がん性疼痛緩和指導管理料
・がん患者指導管理料1	・がん患者指導管理料2
・糖尿病透析予防指導管理料	・地域連携小児夜間・休日診療料2
・院内トリアージ実施料	・ニコチン依存症管理料
・地域連携診療計画管理料	・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)
・がん治療連携計画策定料	・がん治療連携管理料
・認知症専門診断管理料	・肝炎インターフェロン治療計画料
・薬剤管理指導料	・医療機器安全管理料1
・医療機器安全管理料2	・医療機器安全管理料(歯科)
・歯科治療総合医療管理料	・造血器腫瘍遺伝子検査
・HPV核酸検出	・検体検査管理加算(Ⅰ)
・検体検査管理加算(Ⅲ)	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・遺伝カウンセリング加算	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・植込型心電図検査	・胎児心エコー法
・時間内歩行試験	・ヘッドアップティルト試験
・皮下連続式グルコース測定	・神経学的検査
・補聴器適合検査	・コンタクトレンズ検査料1
・小児食物アレルギー負荷検査	・内服・点滴誘発試験
・センチネルリンパ節生検(併用)	・画像診断管理加算1
・画像診断管理加算2	・ポジトロン断層撮影
・ポジトロン断層・コンピュータ断層複合撮影	・CT撮影及びMRI撮影
・冠動脈CT撮影加算	・外傷全身CT加算
・大腸CT撮影加算	・心臓MRI撮影加算
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・外来化学療法加算1
・無菌製剤処理料	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・経口摂取回復促進加算	・がん患者リハビリテーション料
・集団コミュニケーション療法料	・歯科口腔リハビリテーション料2
・認知療法・認知行動療法2	・精神科作業療法
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・エタノールの局所注入(副甲状腺)
・透析液水質確保加算2	・一酸化窒素吸入療法
・CAD/CAM冠	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・緑内障手術(緑内治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・網膜再建術
・人工内耳植込術	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・乳がんセンチネルリンパ節加算1	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・経皮的冠動脈形成術	・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)
・経皮的冠動脈ステント留置術	・経皮的中隔心筋焼灼術
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・補助人工心臓	・経皮的大動脈遮断術
・内視鏡下下肢静脈瘤不全穿通枝切離術	・ダメージコントロール手術
・腹腔鏡下肝切除術	・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・膀胱水圧拡張術
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・輸血管理料Ⅰ	・輸血適正使用加算
・貯血式自己血輸血管理体制加算	・自己生体組織接着剤作成術
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・歯周組織再生誘導手術

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
胃がん予防のためのピロリ菌既感染者対策と感染防止に関する研究	井上和彦 (分担研究者)	総合診療科	500,000円	補委 厚生労働科学研究費補助金
切除不能膵臓癌に対する化学療法併用の γ δ T細胞療法の臨床開発	山口佳之	臨床腫瘍科	2,300,000円	補委 社会医療法人 友愛会 豊見城中央病院
薬剤溶出ステントの遅発性ステント血栓症におよぼす血小板凝集能の影響の検討	大倉 宏之	循環器内科	2,088,430円	補委 文部科学省
不安定プラークにおける超音波IB信号と冠動脈CTによる組織性状分析	川元 隆弘	循環器内科	2,326,528円	補委 文部科学省
アログリプチンのプラーク安定化作用に関する検討	久米 輝善	循環器内科	1,900,000円	補委 文部科学省
難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業	岡三喜男	呼吸器内科	8,000,000円	補委 厚生労働省
肺線癌に高発現する癌精巢抗原XAGEを標的とした癌ワクチンの特許開発	岡三喜男	呼吸器内科	900,000円	補委 日本学術振興会
新規の結核感染診断法の特許開発および臨床応用	小橋吉博	呼吸器内科	900,000円	補委 日本学術振興会
Verify Nowで評価する抗血小板剤術前中止のタイミングに関する研究	種本 和雄	心臓血管外科	5,822,000円	補委 文部科学省
難治性血管炎に関する調査研究	種本 和雄	心臓血管外科	4,540,000円	補委 厚生労働省
肺がんの分子診断法および分子標的治療法の開発	中田 昌男	呼吸器外科	1,000,000円	補委 厚生労働省
EGF family 受容体を介した非小細胞肺癌の自然・獲得免疫逃避機構の解明	沖田 理貴	呼吸器外科	1,000,000円	補委 日本学術振興会
胸膜中皮腫に対するミッドカインの発現解析ならびに新規標的療法の開発	中田 昌男	呼吸器外科	800,000円	補委 文部科学省
慢性腎臓病の基盤病態と心血管病との関連機序の統合的理解と新規治療法開発	柏原直樹	腎臓内科	4,900,000円	補委 文科省科学研究費
膝関節の微小血行動態を解析しうる新規イメージング技術の開発と応用	柏原直樹	腎臓内科	2,900,000円	補委 文科省科学研究費
腹膜線維化における酸化ストレス依存的Wntシグナル伝達制御機構の解明	佐々木環	腎臓内科	1,800,000円	補委 文科省科学研究費
慢性腎臓病と心血管病の関連機序としてのアルブミン尿出現の分子機序の解明	駒井則夫	腎臓内科	700,000円	補委 文科省科学研究費
腎線維化における酸化ストレス依存的Wntシグナル伝達制御機構の解明	佐藤稔	腎臓内科	1,400,000円	補委 文科省科学研究費
選択的エストロゲン受容体刺激薬の蛋白尿による尿細管障害抑制機構の解明	藤本壮八	腎臓内科	1,500,000円	補委 文科省科学研究費
糖尿病性腎症におけるNADPHオキシダーゼNoxアイソフォーム野病態的意義の解明	浪越為八	腎臓内科	1,900,000円	補委 文科省科学研究費
糖尿病性腎症病態形成におけるクロトー遺伝子の抗アポトーシス機序の解明	春名克祐	腎臓内科	300,000円	補委 文科省科学研究費
慢性腎臓病と心血管病の関連機序の解明と治療法開発	柏原直樹	腎臓内科	5,000,000円	補委 上原生命科学財団
膵島の微小血行動態を解析しうる新規in vivoイメージング技術の開発と応用	桑原篤憲	腎臓内科	2,000,000円	補委 万有生命科学振興国際交流財団
平成25年度HIV診察意志情報網支援事業	和田秀徳	血液内科	1,500,000円	補委 公益財団法人エイズ予防財団
経口糖尿病薬による糖尿病からの離脱および動脈硬化抑制研究(PREVENT-J)	加来浩平	糖尿病・代謝・内分泌内科	3,980,115円	補委 財)循環器病研究振興財団
カベオリン3を介した神経型NO合成酵素制御による筋萎縮の病態治療研究	砂田芳秀	神経内科学	1,600,000円	補委 文部科学省科学研究費補助金
糖尿病性多発神経炎の神経再生治療の基礎的検討	村上龍文	神経内科学	800,000円	補委 文部科学省科学研究費補助金
創傷治癒マウスの再生促進分子によるデュシェンヌ型筋ジストロフィー治療法の開発	大澤 裕	神経内科学	800,000円	補委 文部科学省科学研究費補助金

院内PACSと携帯インターネット端末を用いた遠隔地域の脳卒中診療支援システム	井上 剛	脳卒中科	5,330,000円	補委	文部科学省
超音波造影剤(ソナゾイド)を用いた脳梗塞に關与する頸動脈プラークの評価	松本 典子	脳卒中科	2,860,000円	補委	文部科学省
網羅的スクリーニングによる肺炎クラミジア抗原の分子探索とワクチン開発の展開	尾内 一信	小児科	600,000円	補委	文部科学省
トラベラーズワクチン等の品質、有効性等の評価手法の検討に関する研究	尾内 一信	小児科	3,000,000円	補委	厚生労働省
再生医療による人口腸管の開発ーiPS細胞を用いた人工腸管作成のための基礎研究	吉田篤史	小児外科	3,800,000円	補委	文科省科学研究費
子宮収縮における子宮筋一免疫担当細胞連関・酸化ストレス制御機構の解析	下屋浩一郎	産婦人科	1,400,000円	補委	文科省科学研究費
出生前診断に由来する人工妊娠中絶に対する一般市民意識の調査	中井祐一郎	産婦人科	500,000円	補委	文科省科学研究費
トリプルネガティブ乳癌の新規治療法開発のための基礎研究	紅林 淳一	乳腺甲状腺外科	1,690,000円	補委	日本学術振興会
乳癌進展における微小環境シグナリングのリン酸化プロテオミクス解析と組織での可視化	紅林 淳一	乳腺甲状腺外科	910,000円	補委	日本学術振興会
乳腺の前癌病変:疾患概念の確立と臨床病理学的意義の検証	紅林 淳一	乳腺甲状腺外科	200,000円	補委	日本学術振興会
高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究	平岡 崇	リハビリテーション科	700,000円	補委	国立障害者リハビリテーションセンター
食物物がプロセスモデルに与える影響の検討	目谷浩通	リハビリテーション科	1,700,000円	補委	文部科学省
3次元動作解析システムによる強制吸気・呼吸時の胸郭運動評価	花山耕三	リハビリテーション科	1,776,000円	補委	文部科学省
低用量アスピリンによる消化管粘膜障害関連因子の検討	塩谷昭子	食道・胃腸内科	5,330,000円	補委	科研費
食道腺癌の発生機序に関する研究	村尾高久	食道・胃腸内科	500,000円	補委	公益財団法人内視鏡医学研究振興財団
性差とミトコンドリアbiogenesisからみた肝発癌機構の解析	日野 啓輔	肝胆膵内科	3,120,000円	補委	科学研究費助成事業 独立行政法人日本学術振興会
肝発癌抑制戦略としてのmitophagy機能回復	日野 啓輔	肝胆膵内科	3,640,000円	補委	科学研究費助成事業 独立行政法人日本学術振興会
HCVとマイトファジーの関連性	原 裕一	肝胆膵内科	1,170,000円	補委	科学研究費助成事業 独立行政法人日本学術振興会
C型肝炎から発がんにいたる病態進展の解明とその制御に関する研究	日野 啓輔	肝胆膵内科	2,000,000円	補委	厚生労働省科学研究費 金子周一班
B型肝炎ウイルス感染の病態別における宿主因子等について、網羅的な遺伝子解析を用い、新規診断法及び治療法の開発を行う研究	日野 啓輔	肝胆膵内科	1,000,000円	補委	厚生労働省科学研究費 徳永勝土班
肝疾患病態指標血清マーカーの開発と迅速、簡便かつ安価な測定法の実用化	日野 啓輔	肝胆膵内科	補助金は研究代表者に委託	補委	厚生労働省科学研究費 成松久班
形態形成シグナル制御による膵癌癌性幹細胞の微小環境・再構築療法への挑戦	中村 雅史	消化器外科	1,300,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会
iPS細胞由来網膜色素上皮細胞の移植用デバイスの開発	桐生純一	眼科	4,940,000円	補委	日本学術振興会
内耳障害におけるスーパーオキシド分布について	原田 保	耳鼻咽喉科	700,000円 (H23.24.25年合計390万円)	補委	文部科学省 日本学術振興会
IRパルス併用シネダイナミックMRIによる膵液・胆汁・リンパ液の動態イメージング	伊東 克能	放射線科(画像診断1)	1,600,000円	補委	日本学術振興会
加速器中性子捕捉療法に向けた治療適格条件とプロトコルの検討	平塚 純一	放射線科(治療)	5,400,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研
頭頸部がん硼素中性子捕捉療法における加速器線と原子炉線源の臨床的比較検討の研究	平塚 純一	放射線科(治療)	200,000円	補委	独立行政法人日本学術振興会 科学研究費助成事業(学術研
病院設置型加速器中性子捕捉療法(BNCT)頭頸部がんに対するBNCTの研究	平塚 純一	放射線科(治療)	1,000,000円	補委	独立行政法人国立がん研究センター(分担)
緊急被ばく医療への応用を目指した組織再生に関する基礎的検討	犬伏 正幸	放射線医学(核医学)	1,560,000円	補委	日本学術振興会
循環器の最先端治療を支える分子イメージング研究	犬伏 正幸	放射線医学(核医学)	4,420,000円	補委	日本学術振興会
特発性造血障害に関する 調査研究	通山 薫	中央検査部	600,000円	補委	厚生労働科学研究費補助金

スフィンゴシン-1-リン酸受容体のリンパ造血器腫瘍の診断・治療への応用	定平吉都	病院病理部	1,430,000円	補委	科研費(基金)
乳癌の初期浸潤に関する病理形態学的アプローチ	森谷卓也	病院病理部	1,820,000円	補委	科研費(基金)
乳腺浸潤性微小乳頭癌の特徴的な浸潤転移機構の解明	鹿股直樹	病院病理部	1,850,000円	補委	科研費(基金)

計62

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	別紙①のとおり			
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
～				
70				
～				

計111

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	別紙②のとおり			
2				
3				
4				
5				
～				

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

様式3-2 別紙①

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kusunoki Hiroaki	総合診療科	Therapeutic Efficacy of Rikkunshito in Patients With Functional Dyspepsia.	Journal of Neurogastroenterology and Motility 19(4):S6-S7 2013/10
2	Kagiyama N	循環器内科	Two cases of acute bioprosthetic mitral valve thrombosis immediately after mitral valve replacement.	Circulation 129(6):e328-e330 2013
3	Higa T	循環器内科	Prosthetic valve thrombosis caused by heparin-induced thrombocytopenia thrombosis during pregnancy	Circulation Journal 78(4):1004-1005 2013/12
4	Yamada R	循環器内科	Histological Characteristics of Myocardial Bridge With an Ultrasonic Echolucent Band.	Circulation Journal 78(2):502-504 2014/01
5	Okura H	循環器内科	Gender specific outcome after paclitaxel-eluting stent implantation in japanese patients with coronary artery disease--sub-analysis of the Japan TAXUS Express2 post-marketing survey.	Circulation Journal 77(6):1430-1435 2013
6	Okura H	循環器内科	Aortic atherosclerotic plaque and long-term prognosis in patients with atrial fibrillation A transesophageal echocardiographic study	Circulation Journal 77(1):68-72 2013
7	Okura H	循環器内科	Therapy targeting inflammation after stent implantation	Current Vascular Pharmacology. 11(4):399-406 2013
8	Obase K	循環器内科	Visualization of submitral structure by three-dimensional transesophageal echocardiography.	Echocardiography 30(8):945-951 2013
9	Kume T	循環器内科	A unique feature of thin flat thrombus visualised by optical coherence tomography.	EuroIntervention 9(8):1008-1008 2013/12
10	Okura H	循環器内科	Culprit lesion remodeling and long-term prognosis in patients with acute coronary syndrome: an intravascular ultrasound study.	European Heart Journal Cardiovascular Imaging 14(8):758-764 2013
11	Imai K	循環器内科	Prediction of congestive heart failure in patients with non-valvular atrial fibrillation	Internal Medicine 53(1):7-12 2013
12	Neishi Y	循環器内科	Deep vein thrombosis caused by heparin-induced thrombocytopenia thrombosis.	Internal Medicine 52(8):929-929 2013
13	Kume T	循環器内科	Visualization of coronary plaque vasa vasorum by intravascular ultrasound.	JACC Cardiovascular Interventions 6(9):985-985 2013

14	Kume T	循環器内科	Hinge motion and excessive negative remodelling as a cause of early saphenous vein graft failure.	JACC Cardiovascular Interventions 6(3):e15-e16 2013
15	Higa T	循環器内科	Refeeding syndrome in a patient with anorexia nervosa.	Journal of the American College of Cardiology 62(19):1810-1810 2013
16	Kume T	循環器内科	Visualization of coronary plaque vasa vasorum by intravascular ultrasound.	Journal of the American College of Cardiology Cardiovascular Interventions 6(9):985-985 2013/09
17	Koyama T	循環器内科	Impact of energy loss index on left ventricular mass regression after aortic valve replacement.	Journal of Echocardiography 12:51-58 2013/11
18	Neishi Y	循環器内科	Unusual peri-stent strut contrast staining 6 years after sirolimus-eluting stent implantation: an "ant colony-like" appearance.	Heart and Vessels 2013/11
19	Katoh Shigeki	呼吸器内科	Preventive effect of galectin-9 on double-stranded RNA-induced airway hyperresponsiveness in an exacerbation model of mite antigen-induced asthma in mice.	Experimental Lung Research 39(10):453-462 2013/12
20	Shimizu H	呼吸器内科	Critical role of interleukin-5 in the development of a mite antigen-induced chronic bronchial asthma model.	Inflammation Research 62(10):911-917 2013/08
21	Kobashi Y	呼吸器内科	Clinical analysis of patients with pulmonary nontuberculous mycobacterial disease complicated by pneumothorax.	Internal Medicine 52(22):2511-2515 2013/06
22	Kobashi Y	呼吸器内科	Mucoid impaction of the bronchi caused by <i>Mycobacterium avium</i>	Internal Medicine 52(13):1537-40 2013/06
23	Obase Y	呼吸器内科	Step-down of budesonide/formoterol in early stages of asthma treatment leads to insufficient anti-inflammatory effect.	The Journal of Asthma 50(7):718-21 2013/09
24	Shimizu H	呼吸器内科	Establishment of an asthma model by sensitization with mite antigen alone in C57BL/6J mice	Kawasaki Medical Journal 39(1):13-19 2013
25	Kobashi Y	呼吸器内科	Clinical analysis of pulmonary nontuberculous mycobacterial disease diagnosed as coincidental pulmonary infection due to <i>Mycobacterium</i> species	Open Journal of Respiratory Diseases 3:107-112 2013/05
26	Kobashi Y	呼吸器内科	Serological assay by use of glycopeptidolipid core antigen <i>Mycobacterium avium</i> complex	Scandinavian Journal of Infectious Diseases 45(4):241-9 2013/04
27	Hiroshi Furukawa	心臓血管外科	Current status and future perspectives of prosthetic valve selection for aortic valve replacement.	General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 62:19-23 2014/01

28	Yoshiko Watanabe	心臓血管外科	Assessment of the Characteristics and Detectability of Skin Perfusion Pressure Measured Using aThermostatic Heating Probe.	Annals of Vascular Diseases 6(4):718-724 2013/12
29	Shinsuke Saisho	呼吸器外科	Role of 2-[18F]Fluoro-2-deoxyglucose positron emission tomography in Preoperative Management of Solid-Type Small-Sized Lung Cancer	Annals of Nuclear Medicine 27(6):515-522 2013/07
30	Katsuhiko Shimizu	呼吸器外科	Clinical significance of the tumor microenvironment in non-small cell lung cancer	Annals of Translational Medicine 1(2):20-22 2013/07
31	Katsuhiko Shimizu	呼吸器外科	Heterogeneity of the EGFR mutation status between the primary tumor and metastatic lymph node and the sensitivity to EGFR tyrosine kinase inhibitor in non-small cell lung cancer	Targeted Oncology 8(4):237-242 2013/11
32	Satoh M	腎臓内科	Erythropoietin-producing tubercle granuloma in a hemodialysis patient.	BMC Nephrology 14(1):91 2013/04
33	Kidokoro K	腎臓内科	Maintenance of endothelial guanosine triphosphate cyclohydrolase I ameliorates diabetic nephropathy.	Journal of the American Society of Nephrology 24(7):1139-50 2013/06
34	Ihoriya C	腎臓内科	Angiotensin II Regulates Islet Microcirculation and Insulin Secretion in Mice.	Microcirculation 21(2):112-123 2014/02
35	Teruhiko Yokoyama, Yao-Chi Chuang, Michael B. Chancellor	泌尿器科	Update in the Use of Botulinum Toxin for the Treatment of Benign Prostatic Hyperplasia/ Lower Urinary Tract Symptoms	Current Bladder Dysfunction Reports 8(2):174-179 2013/06
36	Wada Hideho	血液内科	Alloantibodies against the B subunit of plasma factor XIII developed in its congenital deficiency.	Thrombosis and haemostasis 109(4):661-668 2013/04
37	Mune T	糖尿病・代謝・内 分泌内科	<I>HSD11B2</I> CA-repeat and sodium balance.	Hypertens Res. 36(7):614-619 2013/07
38	Miyashita K	糖尿病・代謝・内 分泌内科	Sequential introduction and dosage balance of defined transcription factors affect reprogramming efficiency from pancreatic duct cells into insulin-producing cells.	Biochemical and Biophysical Research Communications 444(4):514-519 2014/02
39	Kaku Kohei	糖尿病・代謝・内 分泌内科	Efficacy and safety of dapagliflozin as a monotherapy for type 2 diabetes mellitus in Japanese patients with inadequate glycaemic control: a phase II multicentre, randomized, double-blind, placebo-controlled trial	Diabetes Obesity and Metabolism 15(5):432-440 2013/05
40	Tatsumi Fuminori	糖尿病・代謝・内 分泌内科	Concomitant use of miglitol and mitiglinide as initial combination therapy in type 2 diabetes mellitus.	Diabetes Res Clin Pract. 35-44 2013/05
41	Mune T	糖尿病・代謝・内 分泌内科	Longer HSD11B2 CA-repeat in impaired glucose tolerance and type 2 diabetes.	Endocrine J. 60(5):671-678 2013/05

42	Shimo Naoki	糖尿病・代謝・内分泌内科	A case of aniridia with a heterozygous PAX6 mutation whose pituitary function was partially impaired.	Internal Medicine 53:39-42 2014/01
43	Takahara Mitsuyoshi	糖尿病・代謝・内分泌内科	Assessment of vibratory sensation with tuning fork at different sites in Japanese patients with diabetes mellitus.	Journal of Diabetes Investigation 5:90-93 2014/01
44	Katakami N	糖尿病・代謝・内分泌内科	Carotid ultrasonography: a potent tool for better clinical practice of atherosclerosis in diabetic patients.	Journal of Diabetes Investigation 5:3-13 2014/01
45	Takahara M	糖尿病・代謝・内分泌内科	Prediction for the presence of insulin resistance by general health check-up data in Japanese employees with metabolic risk factors.	Journal of atherosclerosis and thrombosis 21:38-48 2014/01
46	Hemmi S	神経内科	Unilateral calf hypertrophy and focal myositis induced by S1 radiculopathy: dramatic response to steroid treatment.	BMJ Case Rep 999(999):999-999 2013/09
47	Katsumi Kurokawa	神経内科	Tingling of the foot followed by walking difficulty in a 91-year-old woman	Clinical Neurophysiology 124(8):e29 2013/08
48	Murakami T	神経内科	Vascular Endothelial Growth Factor Electro-Gene Therapy Improves Functional Outcome in a Mouse Model of ALS	Immun., Endoc.&Metab. Agents in Med. Chem. 2(13):107-111 2013/06
49	Murakami T	神経内科	Mild phenotype of Charcot-Marie-Tooth disease type 4B1.	J Neurol Sci. 334(1-2):176-179 2013/11
50	Katsumi Kurokawa	神経内科	Focal myopathy in the neck extensor muscles in Japanese Parkinson's disease patients with dropped head syndrome	Neurology and Clinical Neuroscience 1(3):109-113 2013/05
51	Murakami T	神経内科	Expression of the Transthyretin Gene in Schwann Cells and Familial Amyloidotic Polyneuropathy-Mediated Neurodegeneration.	Schwann Cell Development and Pathology 103-119 2014/03
52	Aoki Junya	脳卒中科	Negative Fluid-Attenuated Inversion Recovery- Based Intravenous Thrombolysis Using Recombinant Tissue Plasminogen Activator in Acute Stroke Patients with Unknown Onset Time	Cerebrovascular Diseases Extra 3:35-45 2013
53	Aoki Junya	脳卒中科	Location of the Susceptibility Vessel Sign on T2*-Weighted MRI and Early Recanalization within 1 Hour after Tissue Plasminogen Activator Administration	Cerebrovascular Diseases Extra 3(1):111-120 2013/09
54	Shimoyama Takashi	脳卒中科	Maintenance Hemodialysis Independently Increases the Risk of Early Death after Acute Intracerebral Hemorrhage.	Cerebrovascular diseases (Basel, Switzerland) 36(1):47-54 2013/07
55	Shibazaki Kensaku	脳卒中科	Atrial fibrillation is associated with severe sleep-disordered breathing in patients with ischaemic stroke and transient ischaemic attack.	European journal of neurology 20(2):266-270 2013

56	Shibazaki Kensaku	脳卒中科	Dysarthria plus dysphagia is associated with severe sleep-disordered breathing in patients with acute intracerebral hemorrhage.	European journal of neurology : the official journal of the European Federation of Neurological Societies 21(2):344-348 2014/02
57	Shibazaki Kensaku	脳卒中科	Brain Natriuretic Peptide on Admission as a Biological Marker of Long-Term Mortality in Ischemic Stroke Survivors.	European neurology 70(3-4):218-224 2013/08
58	Shibazaki Kensaku	脳卒中科	Plasma brain natriuretic peptide is elevated in the acute phase of intracerebral hemorrhage.	Journal of clinical neuroscience : official journal of the Neurosurgical Society of Australasia 21(2):221-224 2014/02
59	Aoki Junya	脳卒中科	Response to a letter regarding a paper entitled, "Post-intervention TCD examination may be useful to predict outcome in acute ischemic stroke patients with successful intra-arterial intervention".	Journal of the neurological sciences 338(1-2):243 2014/03
60	Aoki Junya	脳卒中科	Post-intervention TCD examination may be useful to predict outcome in acute ischemic stroke patients with successful intra-arterial intervention.	Journal of the neurological sciences 334(1-2):26-29 2013/11
61	Shibazaki Kensaku	脳卒中科	Early initiation of new oral anticoagulants in acute stroke and TIA patients with nonvalvular atrial fibrillation	Journal of the neurological sciences 331(1-2):90-93 2013/06
62	Aoki Junya	脳卒中科	NIHSS-time score easily predicts outcomes in rt-PA patients: The SAMURAI rt-PA registry	Journal of the neurological sciences 327(1-2):6-11 2013/04
63	Kimura Kazumi	脳卒中科	New Appearance of Extracerebral Microbleeds on T2*-Weighted Magnetic Resonance Imaging 24 Hours After Tissue-type Plasminogen Activator Administration.	Stroke; a journal of cerebral circulation 44(10):2776-2781 2013/10
64	Uemura Junichi	脳卒中科	The Role of Small Vessel Disease in Re-exacerbation of Stroke Symptoms within 24 Hours after Tissue Plasminogen Activator Infusion	Journal of stroke and cerebrovascular diseases 23(1):75-79 2014/01
65	Aoki Junya	脳卒中科	Two different days of transcranial Doppler examinations should be performed for detection of right-to-left shunt in acute stroke patients	Journal of Neuroimaging 23(2):175-179 2013/04
66	Shimoyama Takashi	脳卒中科	Elevated glucose level adversely affects infarct volume growth and neurological deterioration in non-diabetic stroke patients, but not diabetic stroke patients	Journal of the neurological sciences 21:402-410 2013/11
67	Shimoyama Takashi	脳卒中科	The DASH score: A simple score to assess risk for development of malignant middle cerebral artery infarction	Journal of the neurological sciences 338:102-106 2013/12
68	Shimoyama Takashi	脳卒中科	Elevated glucose level adversely affects infarct volume growth and neurological deterioration in non-diabetic stroke patients, but not diabetic stroke patients	European journal of neurology 21(3):402-10 2014/03
69	Atsushi Yoshida	小児外科	Correlation of asymmetric chest wall deformity and growth in patients with pectus excavatum.	Journal of Pediatric Surgery 48(4):771-775 2013/04

70	Shimo Toshiro	乳腺甲状腺外科	Antitumor and anticancer stem cell activity of a poly ADP-ribose polymerase inhibitor olaparib in breast cancer cells	Breast Cancer 21(1):75-85 2014/01
71	Kurebayashi Junichi	乳腺甲状腺外科	Prognostic value of phosphorylated HER2 in HER2-positive breast cancer patients treated with adjuvant trastuzumab.	Breast Cancer(Tokyo,Japan) Epub 2013/06
72	Kurebayashi Junichi	乳腺甲状腺外科	Marked lymphovascular invasion, progesterone receptor negativity and high Ki67 labeling index predict a poor outcome in breast cancer patients treated with endocrine	Breast Cancer(Tokyo,Japan) 21(1):214-222 2014/01
73	Nami KOSAKA	リウマチ・膠原病科	Predominance of Th2 and regulatory cytokines in the serum of a patient with IgG4-related lymphadenopathy	International Journal of Rheumatic Diseases 16(4):486-488 2013/08
74	Akiko NAGASU	リウマチ・膠原病科	Spontaneous splenic rupture complicating granulomatosis with polyangiitis (Wegener's)	International Journal of Rheumatic Diseases 16(5):606-608 2013/10
75	Ohnaru Kazuhiro	整形外科	Hip structural analysis: a comparison of DXA with CT in postmenopausal Japanese women	SpringerPlus 2(331):1-8 2013/07
76	Shiotani Akiko	食道・胃腸内科	Identification of serum miRNAs as novel non-invasive biomarkers for detection of high risk for early gastric cancer.	British Journal of Cancer 109:2323-2330 2013/10
77	Shiotani Akiko	食道・胃腸内科	S100A Expression and Interleukin-10 Polymorphisms Are Associated with Ulcerative Colitis and Diarrhea Predominant Irritable Bowel Syndrome.	Digestive diseases and sciences 58:2314-2323 2013/04
78	Shiotani Akiko	食道・胃腸内科	Novel single nucleotide polymorphism markers for low dose aspirin-associated small bowel bleeding.	Public Library of Science one8(12):e84244-E84244 2013/12
79	Kamada Tomoari	食道・胃腸内科	A study on the efficacy of proton pump inhibitors in Helicobacter pylori-negative primary care patients with dyspepsia in Japan.	Gut Liver 7(1): 16-22 2013/01
80	Fujita Minoru	食道・胃腸内科	Comparison of proliferative capacity of genetically-engineered pig and human corneal endothelial cells.	Ophthalmic Res 49(3): 127-138 2013/03
81	Fujita Minoru	食道・胃腸内科	Technique of endoscopic biopsy of islet allografts transplanted into the gastric submucosal space in pigs	Cell Transplant 22(12): 2335-2344 2013/12
82	Tomiyama Yasuyuki	肝・胆・膵内科	Risk factors for survival and the development of hepatocellular carcinoma in patients with primary biliary cirrhosis	Internal Medicine 52(14):1553-1559 2013/07
83	Tomiyama Y	肝・胆・膵内科	Hepatic oxidative stress in ovariectomized transgenic mice expressing the hepatitis C virus polyprotein is augmented through suppression of adenosine monophosphate-activated protein kinase/proliferator-activated receptor gamma co-activator 1 alpha signaling.	Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology 2013/10

84	Hino Keisuke	肝・胆・膵内科	Iron metabolic disorder in chronic hepatitis C: Mechanisms and relevance to hepatocarcinogenesis	Journal of Gastroenterology and Hepatology 28(Suppl 4):93-98 2013/12
85	Korenaga K	肝・胆・膵内科	Clinical usefulness of non-protein respiratory quotient measurement in non-alcoholic fatty liver disease.	Hepatology Research 43(12):1284-1294 2013/12
86	Hino K	肝・胆・膵内科	Mitochondrial reactive oxygen species as a mystery voice in hepatitis C.	Hepatology research : the official journal of the Japan Society of Hepatology 44(2):123-132 2014/02
87	Hideo Matsumoto	消化器外科	Clinical Benefit of Non-Curative Resection for Stage IV Gastric Cancer	Abdominal Oncology 1(1):1-5 2013
88	Masafumi Nakamura	消化器外科	Combination Therapy of Portal Vein Resection and Adjuvant Gemcitabine Improved Prognosis of Advanced Pancreatic Cancer	Hepato-gastroenterology 60:354-357 2013
89	Masafumi Nakamura	消化器外科	First jejunal vein oriented mesenteric excision for pancreatoduodenectomy	Journal of Gastroenterology 48(8):989-995 2013/08
90	Masafumi Nakamura	消化器外科	Laparoscopic distal pancreatectomy and pancreatoduodenectomy: is it worthwhile? A meta-analysis of laparoscopic pancreatectomy	Journal of Hepato-biliary-Pancreatic Sciences 20(4):421-428 2013/04
91	Haruaki Murakami	消化器外科	Octreotide Acetate-Steroid Combination Therapy for Malignant Gastrointestinal Obstruction	Anticancer research 33(12):5557-5560 2013/12
92	Hisako Kubota	消化器外科	Eicosapentaenoic Acid Modifies Cytokine Activity and Inhibits Cell Proliferation in an Oesophageal Cancer Cell Line	Anticancer research 33(10):4319-4324 2013/10
93	Haruaki Murakami	消化器外科	A case of long myotomy and fundoplication for diffuse esophageal spasm	Esophagus 10(4):273-279 2013/12
94	Haruaki Murakami	消化器外科	A case of secondary achalasia caused by scar tissue formation after distal gastrectomy	Esophagus 10(2):118-122 2013/06
95	Haruaki Murakami	消化器外科	Current status of multichannel electrogastrography and examples of its use	Journal of Smooth Muscle Research 49:78-88 2013
96	Haruaki Murakami	消化器外科	Evaluation of electrical activity after vagus nerve-preserving distal gastrectomy using multichannel electrogastrography	Journal of Smooth Muscle Research 49:1-14 2013
97	Kamao Hiroyuki	眼科	Generation of retinal pigment epithelium from induced pluripotent stem cells showed polarized secretion of VEGF and PEDF	Kawasaki Medical Journal 39(4):155-162 2013/12

98	Kamao Hiroyuki	眼科	Characterization of Human Induced Pluripotent Stem Cell-Derived Retinal Pigment Epithelium Cell Sheets Aiming for Clinical Application	Stem Cell Reports 2(2):205-218 2014/02
99	Kamao Hiroyuki	眼科	induced pluripotent stem cells derived retinal pigment epithelium cell-sheets for clinical transplantation	日本再生医療学会雑誌 12(2):38-43 2013
100	Morita Norimasa	耳鼻咽喉科	Facial nerve canal dehiscence in chronic otitis media without cholesteatoma.	Eur Arch Otorhinolaryngol 271(3):455-458 2014/03
101	Hyo Yuki Yoshi	耳鼻咽喉科	Thickening of the cell wall in macrolide-resistant Staphylococcus aureus.	Medical Molecular Morphology 46(4):217-224 2013/12
102	Yamamoto Akira	放射線科	Newly developed Hypervascular Hepatocellular Carcinoma during Follow-up Periods in Patients with Chronic Liver Disease: Observation in Serial Gadoteric Acid-Enhanced MR Examinations	AJR. American journal of roentgenology 200(6):1254-1260 2013/06
103	Ito Katsuyoshi	放射線科	Magnetisation transfer MR imaging of the kidney: evaluation at 3.0 T in association with renal function	European radiology 23(8):2315-2319 2013/08
104	Higaki Atsushi	放射線科	High-risk nodules detected in the hepatobiliary phase of Gd-EOB-DTPA-enhanced mr imaging in cirrhosis or chronic hepatitis: Incidence and predictive factors for hypervascular transformation, preliminary results	Journal of magnetic resonance imaging : JMRI 37(6):1377-1383 2013
105	Tamada Tsutomu	放射線科	Simple Method for evaluating the degree of liver parenchymal enhancement in the hepatobiliary phase of gadoteric acid-enhanced magnetic resonance imaging	Journal of magnetic resonance imaging : JMRI 37(5):1115-1121 2013/05
106	Tamada Tsutomu,	放射線科	Hypointense hepatocellular nodules on hepatobiliary phase of Gd-EOB-DTPA-enhanced MRI: Can increasing the flip angle improve conspicuity of lesions?	Journal of magnetic resonance imaging : JMRI 37(5):1093-10994 2013/05
107	Higashi H	放射線科	Hypovolemic shock complex: does the pancreatic perfusion increase or decrease at contrast-enhanced dynamic CT?	Clin Imaging 38(1):31-44 2014/01
108	Ito K	放射線科	Assessment of physiologic bile flow in the extrahepatic bile duct with cine-dynamic MR cholangiopancreatography and a spatially selective inversion-recovery pulse.	Radiology 270(3):777-834 2014/03
109	Tsujioka T	中央検査部	Interference by pralidoxime (PAM) salts in clinical laboratory tests.	Clinica Chimica Acta 416:72-79 2013
110	Naoki Kanomata	病院病理部	Vasohibin-1 is a new predictor of disease-free survival in operated patients with renal cell carcinoma	Journal of Clinical Pathology 66(7):613-619 2013/06
111	Kanomata N	病院病理部	Simultaneous demonstration of gelatinolytic activity, morphology, and immunohistochemical reaction using zymography film.	Medical Molecular Morphology 46(4):193-197 2013/06

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	井上和彦	総合診療科	「診断はどのように行うのか?」—適応拡大された<I>H.pylori</I>感染胃炎の的確な診断の普及に向けて—	The GI Forefront 9(2):99-107 2014/01
2	楠裕明	総合診療科	機能性ディスぺプシア (functional dyspepsia:FD) の現況とアコチアミド	Medicament News (2143):3-6 2013/12
3	井上和彦	総合診療科	消化性潰瘍, Helicobacter pylori 感染胃炎	Medicina 51(1):34-39 2014/01
4	楠裕明	総合診療科	上腹部不定愁訴(機能性ディスぺプシア)の現況とその漢方治療	漢方医学 37(4):259-266 2013/11
5	楠裕明	総合診療科	FDの病態・症状と新規治療薬アコチアミドを使いこなすためのコツ	消化器の臨床 16(6):603-607 2013/12
6	楠裕明	総合診療科	胃十二指腸運動機能の推移が評価できたCeliac Artery Compression Syndromeの1例	川崎医学会誌 39(4):169-176 2013/08
7	井上和彦	総合診療科	ABC分類の意義	日本臨床 72(増刊号1):681-686 2014/01
8	井上和彦	総合診療科	胃がんリスク診断(ABC分類)	日本臨床 71(8):1472-1478 2013/07
9	井上和彦	総合診療科	胃癌リスク診断と検診への導入	臨床消化器内科 28(8):1109-1116 2013/06
10	山口佳之	臨床腫瘍科	特集 免疫療法の新展開 がん免疫療法の歴史と新展開—特集に当たって—	癌と化学療法 40(9):1136-1139 2013/09
11	山村真弘	臨床腫瘍科	特集2 GISTの治療における分子標的薬の位置づけ GISTに対する新しい分子標的治療	癌の臨床 59(5):555-562 2013/10
12	山口佳之	臨床腫瘍科	特集 変貌するがん免疫療法 PD-1, PD-L1を標的としたがん治療	腫瘍内科 12(2):156-160 2013/08
13	山口佳之	臨床腫瘍科	がんに対する免疫療法の現状と展望 基礎—知っておきたいポイント—	日本外科学会雑誌 114(5):262-267 2013/05
14	山口佳之	臨床腫瘍科	Ⅲがん薬物治療薬の作業機序 がん免疫療法・細胞療法 樹状細胞ワクチン療法	日本臨床 72(増刊号2):297-301 2014/02
15	荻野隆光	救急科	岡山県下小中高等学校で実施したドクターヘリ見学会による啓発活動効果の検討	日本航空医療学会雑誌 14(1):8-15 2013/08
16	大倉宏之	循環器内科	心房細動と心機能評価.	循環器内科 73(2):150-157 2013
17	林田晃寛	循環器内科	【必ず書ける!専門医を納得させるエコーレポート】収縮性心膜炎のエコーレポート 病態を意識する.	心エコー 14(6):586 2013/06
18	大倉宏之	循環器内科	連続性雑音が聴こえた場合どのような疾患を考えるのか、また心エコーアプローチをいかに行うか	心エコー 14(4):338-346 2013
19	大倉宏之	循環器内科	代謝・内分泌疾患と心疾患	心エコー 14(3):220-230 2013

20	大倉宏之	循環器内科	大動脈弁狭窄—無症状でも手術が必要 なとき—	心エコー 14(1):26-34 2013
21	林田晃寛	循環器内科	大動脈弁狭窄症の重症度評価—弁口 面積と圧較差がくい違ったら?—	超音波医学 40(5):473-483 2013
22	Okura H	循環器内科	Coronary aneurysm associated with systemic inflammatory diseases: How to treat?	Journal of Cardiology Cases 8(1):e66-e66 2013
23	山澤隆彦	心臓血管外科	外傷性大動脈破裂に対する外科治療	胸部外科 66(7):537-540 2013/07
24	田淵 篤	心臓血管外科	当科の内視鏡下筋膜不全穿通枝切 離術(SEPS)の治療成績の検討	静脈学 24(3):281-286 2013
25	田淵 篤	心臓血管外科	大伏在静瘤に対する各種術式の治療成 績	静脈学 24(2):91-99 2013/05
26	古川博史	心臓血管外科	冠動脈バイパス術後心臓リハビリテー ションの問題点 —心リハ非施行症例か ら見た課題と今後の展望—	日本冠疾患学会雑誌 20:32-36 2014/03
27	正木久男	心臓血管外科	膝窩動脈以下の病変に対する重症虚血 肢の治療 血管内治療vsバイパス術	日本血管外科学会雑誌 22(4):715-718 2013
28	正木久男	心臓血管外科	ASOの透析合併例の集学的治療	脈管学 53:185-189 2013/05
29	前田 愛	呼吸器外科	肺アスペルギルス症に対する術後抗真 菌薬の必要性に関する検討	日本呼吸器外科学会雑誌 27(7):805-811 2013/11
30	Maeda A	呼吸器外科	Unknown primary large cell neuroendocrine carcinoma (LCNEC) in the mediastinum.	General Thoracic Cardiovascular Surgery 61(9):542-5 2013/09
31	Yasuda K	呼吸器外科	Case of pleural metastasis of prostate cancer	Thoracic Cancer 4(4):465-468 2013/11
32	Riki Okita	呼吸器外科	CT, MRI, and 18F-FDG PET-CT findings of pulmonary benign metastasizing leiomyoma: A case report	Open Journal of Thoracic Surgery 3(4):127-129 2013/12
33	Takuro Yukawa	呼吸器外科	Lung cancer with sarcoid reaction in the lymph nodes following chemoradiotherapy	Asian cardiovascular & thoracic annals 21(6):723-734 2013/12
34	永井敦	泌尿器科	性の悩み	癌と化学療法 41(1):20-22 2014/01
35	宮地禎幸	泌尿器科	前立腺癌骨転移に対する新しい治療戦 略	西日本泌尿器科 76(3):79-87 2014/03
36	永井敦	泌尿器科	【若年者で話題の射精障害】射精のメカ ニズムと射精障害	泌尿器外科 26(9):1353-1356 2013/09
37	永井敦	泌尿器科	勃起のアンチエイジング	臨床泌尿器科 67(13):1073-1077 2013/12
38	宮地禎幸	泌尿器科	良性・悪性の鑑別に迷う腎盂・尿管病変	臨床泌尿器科 67(11):871-876 2013/10
39	平井伸典	泌尿器科	症例から学ぶ上部消化器疾患(第18回) 下血を機に診断された腎細胞癌の同時 性胃転移の1例	The GI Forefront 9(2):87-90 2014/01

40	和田秀穂	血液内科	先天性溶血性貧血-遺伝性球状赤血球症を中心に	臨床検査 58(3):297-302 2014/03
41	阿武孝敏	糖尿病・代謝・内分泌内科	DPP-4阻害薬(シタグリプチン)による薬剤熱が疑われた1例	糖尿病 56(5):292-297 2013/05
42	中島弘二	糖尿病・代謝・内分泌内科	2型糖尿病における短期強化インスリン療法による糖毒性解除の評価-未治療患者と既治療患者の比較-	糖尿病 56(8):551-559 2013/08
43	砂田芳秀	神経内科	「No」の立場から	Frontiers in Parkinson Disease 6(4):999-999 2013/11
44	深井 雄太	神経内科	Mycoplasma Pneumoniae感染後に重篤な経過をたどった抗Gal-C抗体陽性急性散在性脳脊髄炎の一例	NEUROINFECTION 18(2):161-161 2013/09
45	砂田芳秀	神経内科	筋疾患の治療の進歩	神経治療学 別刷 30(4):427-430 2013/07
46	久徳弓子	神経内科	Palilaliaを呈したCorticobasal syndromeの1例	臨床神経学 54(1):73 2014/01
47	白河 俊一	神経内科	痙性対麻痺で発症したcorticobasal syndromeの一例	臨床神経学 54(1):73-73 2014/01
48	白河 俊一	神経内科	横紋筋融解症を繰り返し、筋生検にて骨格筋型極長鎖アシルCoA脱水素酵素(VLCAD)欠損症と診断した1例	臨床神経学 53(5):391-391 2013/05
49	深井 雄太	神経内科	多数のrimmed vacuole(RV)を認めたEmery-Dreifuss型筋ジストロフィー(EDMD)の1例	臨床神経学 53(5):386-386 2013/05
50	佐治直樹	脳卒中科	深部皮質下領域の急性期脳梗塞患者における早期神経徴候悪化と動脈スティフネスとの関連	Arterial Stiffness: 動脈壁の硬化と老化 (19):54-55 2013
51	芝崎謙作	脳卒中科	急性期脳梗塞の診断と治療	BRAIN and NERVE: 神経研究の進歩 65(9):1023-1030 2013/09
52	松本典子	脳卒中科	脳出血の超音波診断	Neurosonology 26(2):91-93 2014/01
53	松本 典子	脳卒中科	目で見る神経超音波診断 頸部血管エコーによる頸動脈プラークの評価 超音波造影剤の有用性	Neurosonology 26(1):1-3 2013/10
54	植村順一	脳卒中科	【プライマリケア医こそ知っておくべき一過性脳虚血発作(TIA)治療の最新動向】一過性脳虚血発作(TIA)の脳卒中リスク評価 ABCD2スコアを中心に	Progress in Medicine 33(8):1713-1717 2013/08
55	植村順一	脳卒中科	あなたも名医！脳卒中と一過性脳虚血発作を見逃すな！～脳梗塞の急性期加療～	jmedmook (25):74-80 2013/04
56	坂井健一郎	脳卒中科	【脳血管障害-予防・診断・治療法の進歩-】超音波検査法の臨床的有用性	最新医学 68(5):952-958 2013/05
57	松本典子	脳卒中科	【標的臓器保護からみた高血圧治療】脳卒中急性期における血圧管理	循環器内科 73(6):637-644 2013/06
58	佐治直樹	脳卒中科	【神経症候群(第2版)-その他の神経疾患を含めて-】血管障害 その他 鎖骨下動脈盗血症候群(現象)	日本臨床別冊神経症候群 I 444-448 2013/12
59	芝崎謙作	脳卒中科	知って得するワンポイントアドバイス 脳卒中患者におけるBNPの意義	脳と循環 19(1):68-70 2014/01

60	佐藤貴洋	脳卒中科	【急性期血行再建療法の新展開-4.5時間と血管内療法-】t-PA 4.5時間時代の適応決定と画像イメージング	分子脳血管病 13(1):40-45 2014/01
61	植村順一	脳卒中科	【新たな視点からみた脳出血】出血性梗塞の分類と治療	分子脳血管病 12(3):262-265 2013/07
62	植村順一	脳卒中科	巨大内頸動脈瘤をとまう結節性多発動脈炎の1例	臨床神経学 53(6):452-457 2013/06
63	佐藤貴洋	脳卒中科	片側の血管新生緑内障を契機に診断に至った両側内頸動脈閉塞症の1例	臨床神経学 53(5):387 2013/05
64	佐治直樹	脳卒中科	XV-1脳梗塞	循環器疾患最新の治療 389-394 2014/02
65	Saji Naoki	脳卒中科	A case of impaired tongue movement in an elderly person.	European neurology 70(5-6):329-330 2013
66	横須賀 公彦	脳神経外科	意識障害を伴う重症脳脊髄液減少症の治療経験	脳神経外科ジャーナル 23(2):156-163 2014/02
67	宇野昌明	脳神経外科	静脈洞血栓症に対しPenumbra systemで緊急血栓吸引術を施行した1例	脳神経外科速報 23(4):329-400 2013/04
68	尾内一信	小児科	【座談会】マイコプラズマ肺炎の診断と治療	Up-to-date子どもの感染症 1(1):12-19 2013/06
69	寺田喜平	小児科	風疹HI抗体価別によるワクチン接種ブースターの長期効果	感染症学雑誌 88(1):110-116 2014/01
70	寺西英人	小児科	ピンクリヌチンが奏功したMultifocal Lymphoendotheliomatosis With Thrombocytopeniaの1新生児例	日本小児科学会雑誌 117(5):892-896 2013/05
71	尾内一信	小児科	小児呼吸器感染症診療ガイドライン2011の活用のポイント 小児肺炎マイコプラズマ肺炎の診断と治療に関する追補版 小児肺炎マイコプラズマ肺炎の診	日本小児呼吸器学会雑誌 24(2):158-162 2014/01
72	宋美玄	産婦人科	妊産婦におけるアロマ吸引によるストレス軽減効果の検討	アロマセラピー学雑誌14(1):52-57 2014/03
73	羽間 夕紀子	産婦人科	当院におけるHPVワクチンの接種完遂率の検討	現代産婦人科 62(1):65-67 2013/11
74	杉原 弥香	産婦人科	当科における妊娠糖尿病新基準による管理	現代産婦人科 62(1):59-63 2013/11
75	福家 信二	産婦人科	【胎児救命】子宮破裂と胎児救命	産婦人科の実際 62(10):313-320 2013/10
76	下屋 浩一郎	産婦人科	改めて帝王切開術を振り返る	滋賀県産科婦人科雑誌 5:67-74 2013/12
77	富松 拓治	産婦人科	成熟児のasphyxiaとcerebral palsy その疫学と予防 胎児脳循環からみた分娩管理 胎児二酸化炭素分圧の重要性	周産期学シンポジウム (31):51-54 2013/09
78	富松拓治	産婦人科	【産婦人科当直マニュアル-慌てないための虎の巻】婦人科編「救急/時間外」の婦人科疾患 卵巣チョコレート嚢胞破裂	臨床婦人科産科 67(4):35-37 2013/04
79	富松拓治	産婦人科	【産婦人科当直医マニュアル-慌てないための虎の巻】「救急/時間外」の婦人科疾患 卵巣腫瘍茎捻転	臨床婦人科産科 67(4):32-34 2013/04

80	紅林淳一	乳腺甲状腺外科	【乳がん】研究編 乳がんのサブタイプ分類とゲノミクス	クリニシアン (10):876-881 2013/10
81	紅林淳一	乳腺甲状腺外科	Breast and Endocrine Tumor 乳腺・内分泌腫瘍 乳癌 ホルモン感受性と抵抗性 ホルモン感受性と抵抗性の予測因子	癌と化学療法 40(13):2500-2504 2013/12
82	田中克浩	乳腺甲状腺外科	【甲状腺がん病態と治療のUpdate-】 診療における方向性 甲状腺未分化がんの生物学的特性と治療戦略	最新医学 68(9):1862-1866 2013/09
83	齋藤互	乳腺甲状腺外科	術後化学療法後に持続性無月経であったが高エストロゲン血症を呈した閉経前乳癌の1症例	川崎医学会誌 39(4):163-167 2013/12
84	山下哲正	乳腺甲状腺外科	エストロゲン受容体陽性乳癌細胞における抗エストロゲン薬とmTOR阻害薬エベロリムスの細胞増殖及び癌幹細胞制御に対する効果	川崎医学会誌 39(3):65-79 2013/11
85	紅林淳一	乳腺甲状腺外科	【乳がん個別化薬物治療の実践-HER2陽性/陰性をポイントとして】ホルモン療法耐性・HER2陰性乳がんに対する薬物治療の実際 ホルモン療法	臨床腫瘍ブラクティス 9(4):362-367 2013/11
86	Kikuchi Yasuko	乳腺甲状腺外科	Aberrantly methylated genes in human papillary thyroid cancer and their association with BRAF/RAS mutation.	Frontiers in Genetics 4:2712 013/12
87	清水 総一郎	整形外科	寛骨臼回転骨切り術後に大腿骨骨頭壊死症を生じた1例	Hip Joint 39:216-218 2013/08
88	射場英明	整形外科	高齢者圧迫骨折後偽関節に対して胸腔鏡下前方固定術(VATS)を併用し脊柱再建を行った3例(短期成績)	JOSKAS 38(4):186 2013/06
89	今野 陽介	整形外科	筋力評価から見た両側同時UKAの治療成績	JOSKAS 38(4):173 2013/06
90	難波 良文	整形外科	PSI初期導入例に対する評価と問題点	JOSKAS 38(4):158 2013/06
91	大成 和寛	整形外科	【神経修復法-基本知識と実践手技-】 神経修復に関わる手術手技 神経移植 血管柄付き前腕皮神経移植	PEPARS (78):50-55 2013/06
92	今野 陽介	整形外科	筋力評価からみた両膝同時UKAの治療成績	岡山医学会雑誌 125(2):187 2013/08
93	長谷川 徹	整形外科	【脊椎鏡視下手術の現状と未来】内視鏡手術の特殊器具とその使用工夫 曲がりものとソノベットなど	関節外科 32(11):1212-1214 2013/11
94	中西一夫	整形外科	【最小侵襲脊椎安定術MISTの様々なアプローチ】転移性脊椎腫瘍に対する最小侵襲脊椎安定術(Minimally Invasive spine Stabilization:MIST)の応用	整形外科最小侵襲手術ジャーナル (68):61-67 2013/09
95	清水総一郎	整形外科	梨状筋症候群に対する術前電気生理学的診断の有用性	中国・四国整形外科学会雑誌 25(3):525 2013/10
96	加納健司	整形外科	当院における転移性脊椎腫瘍に対する最小侵襲脊椎制動固定術(Minimally invasive spine stabilization:MIST)の検討	中国・四国整形外科学会雑誌 25(3):521 2013/10
97	今野陽介	整形外科	感染性脊椎炎に対する低侵襲脊椎制動固定術(MIST)の治療経験	中国・四国整形外科学会雑誌 25(3):510 2013/10
98	高田逸朗	整形外科	手指MP関節伸展拘縮に対して行った観血的関節受動術の2例	中国・四国整形外科学会雑誌 25(2):385-389 2013/09
99	清水総一郎	整形外科	胸腰椎移行部骨折に対する後方固定術+胸腔鏡下前方固定術(VATS)の検討	中国・四国整形外科学会雑誌 25(2):307-311 2013/09

100	高田逸朗	整形外科	Zone Vでの全屈筋腱、神経、動脈断裂の2例	中国・四国整形外科学会雑誌 25(1):243 2013/04
101	高田逸朗	整形外科	筋腱移行部からの引き抜き(avulsion type)切断指の一次的腱修復の検討	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 56(秋季学会):241 2013/09
102	大成和寛	整形外科	恥骨結合離解に膀胱嵌頓・損傷を合併した2例	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 56(秋季学会):145 2013/09
103	加納 健司	整形外科	上腕骨滑車骨端の骨化進行過程の観察および評価	日本臨床スポーツ医学会誌 21(2):384-387 2013/04
104	中西一夫	整形外科	【腰椎疾患up-to-date】手術的治療の進歩 最小侵襲手術(MIS) 透析患者に対する脊椎内視鏡手術の有用性	別冊整形外科 (63):178-183 2013/04
105	難波 良文	整形外科	低侵襲手術の今 低侵襲人工膝関節置換術と理学療法(解説)	理学療法ジャーナル 48(1):61-69 2014/01
106	黒田崇之	整形外科	初回セメントレスTHA術後の静脈血栓塞栓症予防における抗凝固療法の予防効果—術後24時間から開始した症例と48時間以降に開始した症例の検討—	Hip Joint 39:115-119 2013/08
107	黒田 崇之	整形外科	大腿骨転子部骨折術後破綻例に対するTHA	中国・四国整形外科学会雑誌 25(1):63-67 2013/04
108	梅原 憲史	整形外科	術中にラテックスアレルギーによるアナフィラキシーショックを生じた2例(原著論文)	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 57(2):381-382 2014/03
109	黒田 崇之	整形外科	C-CHS・DHS抜釘後にTaperloc Microplastyシステムを用いてTHAを施行した4例(原著論文)	中部日本整形外科災害外科学会雑誌 57(1):145-146 2014/01
110	黒田崇之	整形外科	大腿骨頭すべり症のin situ pinning後にbumpによるFAIを生じた1例	日本小児整形外科学会雑誌 22(2):309-314 2013/12
111	黒田 崇之	整形外科	小児大腿骨骨幹部骨折に対する牽引療法の成績	日本小児整形外科学会雑誌 22(1):119-122 2013/06
112	黒田 崇之	整形外科	TAPERLOC Microplastyシステムの固定性に関するX線学的検討	日本人工関節学会誌 43:117-118 2013/12
113	稲川喜一	形成外科	折れ耳(絞扼耳輪)の治療	形成外科 56:609~615 2013
114	平岡崇	リハビリテーション科	高次脳機能障害外来のあるべきすがた—当院の取り組みと現状—	The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 51(3):183-186 2014/03
115	塩谷昭子	食道・胃腸内科	カプセル内視鏡の現状と展望 診断精度向上の工夫	胃と腸 48(4):410-417 2013/04
116	藤田 穰	食道・胃腸内科	原因不明の消化管出血症例の現状—当院で施行したカプセル内視鏡およびバルーン内視鏡症例の解析から—	消化管の臨床 19:11-16 2014/03
117	春間賢	食道・胃腸内科	【PPIをめぐる新たな展開】PPI長期投与の問題点 胃ポリープの発生	消化器内科 56(2): 190-193 2013/02
118	Shiotani Akiko	食道・胃腸内科	Eradication of gastric cancer is now both possible and practical.	Semin Cancer Biol 23(6 Pt B): 492-501 2013/12
119	小山展子	肝・胆・膵内科	【Q&A】腹痛を契機に診断された巨大腹部腫瘍	日本消化器病学会雑誌 110(8):1495・1498 2013/08

120	日野啓輔	肝・胆・膵内科	C型肝炎ウイルスコア蛋白によるミトコンドリア特異的autophagy(mitophagy)の抑制	ウイルス肝炎・肝癌の病態と治療 第29回犬山シンポジウム記録集 157-163 2013/08
121	原裕一	肝・胆・膵内科	ウイルス肝炎からの発がん疫学, メカニズム, 予防, サーベイランスに関して	診断と治療 101(9):1325-1331 2013/09
122	仁科惣治	肝・胆・膵内科	酸化ストレスとNASH	HEPATOLOGY PRACTICE (第2巻) 【NASH・アルコール性肝障害の診療を極める ～基本から最新まで～】 2,30-34 2013/10
123	仁科惣治	肝・胆・膵内科	第3章診断 鑑別すべき疾患	最新医学・別冊 新しい診断と治療のABC 44:83-91 2013/11
124	日野啓輔	肝・胆・膵内科	3.肝臓領域 B型肝炎:温故知新	第100回日本消化器病学会中国支部例会記念誌 130-136 2013/11
125	仁科惣治	肝・胆・膵内科	特集 金属代謝と肝疾患【鉄代謝障害とC型肝炎】	細胞 46(1):8-11 2014/01
126	日野啓輔	肝・胆・膵内科	特集 金属代謝と肝疾患【総論 肝病態形成における金属代謝障害の意義】	細胞 46(1):2-3 2014/01
127	佐々木恭	肝・胆・膵内科	抗凝固剤	肝胆膵 68(2):235-238 2014/02
128	平井敏弘	消化器外科	消化管間質腫瘍(GIST)とCD117について	クリニシアン 60(11):52-53 2013/11
129	中村雅史	消化器外科	エキスパートが教える内視鏡外科手術;ポイントとなる解剖の理解【肝・胆・膵・脾の鏡視下手術】6. 腹腔鏡下尾側膵切除術(脾温存術)	消化器外科 36(5):834-841 2013/04
130	岡保夫	消化器外科	栄養補助食品を用いたヒト型抗EGFR抗体薬起因性皮膚障害の軽減化ー支持療法の工夫②	臨床腫瘍ブракティス 9(3):312-316 2013/08
131	原田 保	耳鼻咽喉科	特集・糖尿病と耳鼻咽喉科疾患 糖尿病と鼻・副鼻腔疾患	ENTONI (161):40-46 2013/12
132	福島久毅	耳鼻咽喉科	糖尿病患者の内耳病理 ヒト側頭骨連続切片を用いた形態学的研究	耳鼻咽喉科ニューロサイエンス 27:89-82 2013/04
133	田中浩喜	耳鼻咽喉科	降下性壊死性縦隔炎2例	耳鼻咽喉科臨床 106(8):739-746 2013/08
134	藤崎倫也	耳鼻咽喉科	当科で経験した側頭骨線維性骨異形成症の1例	川崎医学会誌 40(1):49-55 2014/01
135	兵 行義	耳鼻咽喉科	特集II スギ花粉症の発症と初期治療 スギ花粉症治療における鼻噴霧用ステロイド薬	臨床免疫・アレルギー科 60(6):648-655 2013/12
136	Tamada Tsutomu	放射線科	Diffusion-weighted MRI and its role in prostate cancer.	NMR in biomedicine 27(1):25-38 2014/01
137	Ishihara Takeaki	放射線科	Long-term outcome of hypofractionated radiotherapy to the whole breast of Japanese women after breast-conserving surgery.	Breast cancer (Tokyo, Japan) 21(1):40-46 2014/01
138	神谷 伸彦	放射線科	高リスク前立腺癌HDR-BTにadjuvantホルモン治療は必要か?	臨床放射線 58(13):1875-1879 2013/12
139	Suzuki M	放射線科	Boron neutron capture therapy outcomes for advanced or recurrent head and neck cancer.	Journal of receptor research 55(1):146-153 2014/01

140	Aihara Teruhito	放射線科	Boron neutron capture therapy for advanced salivary gland carcinoma in head and neck.	International Journal of Clinical Oncology 18(3):1-1 2013/06
141	曾根照喜	放射線科	臨床における骨強度評価の進歩	BIO Clinica28(10):906-9102013/09
142	曾根照喜	放射線科	新規骨粗鬆症治療薬による骨構造特性と骨強度の変化	Clinical Calcium 23(7):1021-1026 2013/07
143	曾根照喜	放射線科	骨量測定の意味と活用法	Osteoporosis Japan 21(3):522-525 2013/07
144	曾根照喜	放射線科	骨粗鬆症による骨折の病態・診断・評価・治療:画像診断	日本臨床 71(増刊2):480-483 2013/04
145	吉川邦彦	放射線科	悪性リンパ腫のFDG-PETにおける下肢撮像の意味	臨床放射線 59(2):317-326 2013/02
146	上杉里枝	中央検査部	免疫検査項目・HbA1cに対する岡山県クロスチェックサーベイからみた測定値の施設間差の実態と調和化の可能性.	医学検査 62:139-148 2013
147	古川聡子	中央検査部	実測イヌリンクリアランスを基準とした日本および米国におけるGFR推算式の比較	医学検査 62(6):655-660 2013/09
148	Nagase S	中央検査部	Interference by pralidoxime (PAM) salts in clinical laboratory tests.	Clinica Chimica Acta 416:72-79 2013
149	Kanomata N	病院病理部	TP53 mutations of intestinal metaplasia	Human Pathology 45(2):431 2014/01
150	Kanomata N	病院病理部	Well-Differentiated Adenocarcinoma of the Urinary Bladder with Minimal Deviation Adenocarcinoma-Like Features	Journal of Cytology and Histology 4(4):189 2013/11
151	秋山祐治	医療資料部	ストレス関連遺伝子多型の表現型と適切な職場支援の関連	DNA多型 21:253-255 2013/05
152	秋山祐治	医療資料部	教育病院であり特定機能病院である川崎医科大学附属病院における入院患者の地理情報処理結果についての考察	川崎医学会雑誌 39(4):141-153 2013/12
153	宮原勅治	医療資料部	医療情報システムと医療ITプロジェクトマネージメント人材	日本情報経営学会誌 33(3):17-22 2013/05

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 医学研究の原則・手順書の目的及び適用範囲・倫理委員会設置者及び臨床研究機関の長及び研究者等の責務・健康保険適応外薬剤等の管理・記録の保存を定め、これとは別に、①倫理委員会の業務手順書、②研究者等が実施すべき事項に関する手順書を設け、①では、適用範囲・義務・委員会委員の構成・委員会の業務・開催・審査に係る事項・記録の保存等を定め、②では、研究者の要件・責務・研究対象者への同意の取得・研究対象者への医療に関する責務・研究実施計画書からの逸脱等に関する事項を定めている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとする）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントポリシーに基づいた規程においては、利益相反マネジメントの定義、マネジメントの対象、責任体制（最高責任者、総括管理責任者）、利益相反委員会の所掌事項、組織、マネジメントの実施方法、教育研修、外部からの指摘に対する対応、秘密保持等について定め、別途申告基準を設けている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年64回

- (注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとする）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回 (同じ内容を2日間開催)
・ 研修の主な内容 ①各種指針等や事例をあげた医学研究倫理の基本知識、②倫理申請書作成に関する基本的な内容や本学倫理委員会での審査手順、③利益相反マネジメントの現状と注意点	

- (注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとする）。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

- 日本再生医療学会再生医療認定医（申請中）
研修内容：治療用ヒト細胞培養
（臨床腫瘍科）
- 高度救命救急センターとして、救急科専門医の要請ができる。また、研修医の救急医療教育の場となっている。さらに、ドクターヘリによる病院前救急医療の研修が可能となっている。
（救急科）
- 循環器内科全般（身体所見、心電図、心エコー図、冠動脈造影 CT、心臓 MRI、心臓カテーテル検査）
（循環器内科）
- 1) 肺癌に対する抗体免疫療法、その管理とモニタリング
2) 超音波気管支内視鏡を用いた呼吸器疾患の診断
（呼吸器内科）
- 呼吸器外科専門医修練カリキュラムに準じて、呼吸器疾患の診断および治療計画を立案し、自ら外科的治療と周術期管理を施行できることを目標とする。治療方針については、呼吸器内科医、腫瘍内科医、放射線科医などと定期的なカンファレンスを開催し、自症例を紹介するとともに討論に参加する。開胸術ならびに胸腔鏡手術の術者または第一助手として、多くの症例にあたり外科的技術の修練を行う。術後のフィードバックとして、放射線科医、病理医とカンファレンスを持ち、術前診断の問題点について討議を行う。
（呼吸器外科）
- 維持血液透析患者のバスキュラーアクセス管理を多角的なアプローチで評価し、迅速な治療介入を行う。
（腎臓内科）
- 低侵襲かつ治療成績において正確・確実性を兼ね備える腹腔鏡手術の習得を目的に 3 名の泌尿器腹腔鏡技術認定医の指導による手術指導を行っている。最終目標は日本泌尿器内視鏡学会の泌尿器腹腔鏡技術認定医取得としている。
（泌尿器科）
- 血液専門医研修カリキュラム（平成 21 年 2 月 16 日：改訂）に沿って研修。最終的には血液専門医試験に合格し資格を得ることを目標とする。
（血液内科）
- 糖尿病・代謝・内分泌診療に必要な基礎的な知識および臨床的な手技を修得させる
（糖尿病・代謝・内分泌内科）
- 1. 神経超音波検査（頸部血管超音波検査、経頭蓋ドプラ検査、経頭蓋カラー・ドプラ検査・経食道心臓超音波検査・下肢静脈超音波検査）をマスターする。
2. 脳血管造影検査をマスターする。
3. 脳卒中に対する血管内治療（経動脈的血栓溶解療法、経皮的頸動脈形成術）をマスターする。
4. 超急性期脳梗塞に対する t-PA 投与のマネージメントができる。
5. 急性期脳卒中に対する内科的診療が実践できる。

(脳卒中科)

- ・小児科研修に必要な幅広い疾患を経験できる。それぞれの領域（感染症、アレルギー、新生児、小児外科疾患、内分泌代謝、先天奇形、循環器、神経、血液・悪性腫瘍など）の指導者による研修を受けている。毎年、小児科専門医を輩出している。

(小児科)

- ・新生児集中治療室（NICU）を臨床の主な場として新生児学に基づいた診療、研究について研修する。人工呼吸管理、循環管理、中心静脈栄養などの高度医療を実践するための知識、技術を修得する。また、新生児医療特有の（１）周産期、新生児医療での救急医療、（２）未熟児の管理と予後、（３）家族の中での新生児、母と子の絆形成について学び、人を生物学的、社会的に健全に保つのに不可欠である全人的医療の基礎を修得する。

(新生児科)

- ・小児に対する腹腔鏡手術および胸腔鏡手術を多数行っており、充実した指導を行うことができている。

(小児外科)

- ・①周産期医療における研修
 - ②超音波検査の研修
 - ③婦人科腫瘍学の研修
 - ④生殖医療についての研修
 - ⑤婦人科内視鏡手術の研修
- (産婦人科)

- ・乳腺疾患・甲状腺疾患・副甲状腺摂関に対する高度な医療

(乳腺甲状腺外科)

- ・当科は、全身の臓器に病気が及ぶ膠原病を専門としています。対象臓器が一つに留まることはまずありません。また、治療に用いるステロイド薬や免疫抑制薬により、様々な感染症や糖尿病など合併症に直面することもあります。すなわち、心臓、呼吸器、消化器、血液、脳神経と多臓器の障害に対し、整形外科、皮膚科、感染症、免疫の知識をも総動員して診療に当たる必要があります。したがって、当科では全身を診る事ができる総合的な診療能力の修得を研修目標の一番に挙げています。また同時に、最新の臨床免疫学の知識を理解することも可能です。

(リウマチ・膠原病科)

- ・当院では安全・低侵襲・正確な手術を行えるよう努力している。

安全面では脊髄手術の際に脊髄誘発電位測定をモニターしながら手術をしたり、人工関節手術の際に出来るだけ自己血貯血を行い、同種血輸血を回避している。

低侵襲の面では脊椎に対しては小切開の脊椎固定手術を行ったり、内視鏡視下手術を行ったりしている。関節に対しては出来るだけ関節鏡を用いて手術を行っている。

正確の面に対しては脊椎手術や関節手術に対してナビゲーションを用いた手術を行っている。正確な手術は安全な手術にもつながると考えている。

その他に顕微鏡視下手術では、指の再接着や高度外傷に伴う機能再建手術を積極的に行っている。

(整形外科)

- ・1. カプセル内視鏡を含めた最先端の消化器内視鏡診療技術の習得
- 2. 食道内圧、胃十二指腸運動、大腸通過時間など消化管の運動機能の評価
- 3. 消化管癌の発生リスク評価
- 4. 炎症性腸疾患の診断と治療に関する最先端の診療

(食道・胃腸内科)

・ 1. 抗ウイルス効果予測 SNP の測定とその結果に応じたテーラーメイド型 C 型慢性肝炎治療の実践

2. Interventional な内視鏡検査による悪性膵胆道疾患に対するステント挿入、膵癌早期診断のための膵液細胞診、超音波内視鏡下微細穿刺針による腫瘍生検
(肝臓・胆のう・膵臓内科)

・ 外科専門医が 9 名、消化器外科専門医が 7 名、さらに肝胆膵高度技能認定医 1 名、食道外科専門医 2 名、内視鏡外科専門医 3 名が在籍しており、それぞれの領域で専門医取得に必要な技能、知識を修得するための研修を行っている。
(消化器外科)

・ 始めの 2 ヶ月は指導医スタッフがレジデントとマンツーマンで指導にあたり、眼科診療システムを理解したうえで、診察に最低限必要な基本的検査手技をマスターする。これと並行して、7 プログラムの教育スタッフによる眼科の基本的事項（検査、手術、疾患）の講義が行われ、レジデントが診療の流れ、検査のコツ、疾患の考え方、手術手技などを理解させる。理解度を確認しながら、指導医は入院患者の診察・処置や手術の介助などの実習をスタートさせる。個人差はあるが、9～12 ヶ月目には、教育医の指導下に一部の外眼部手術や白内障手術の実施や外来の担当も可能となる。適宜、クリニカルカンファレンスでの interview により到達度はチェックされるが、さらに 6 ヶ月目の中間試問、年度末の総合試問が行われ、1 年間の研修成果が問われる。それぞれの試問では 7 プログラムの眼科研修委員の interview が行われ、到達目標をクリアできたかを厳格に審査される。
(眼科)

・ 当科領域は、耳、鼻、咽頭および喉頭におよぶ、それぞれに機能があり、これを温存する治療が必要である。耳科に対しては人工内耳、癌腫に関しては抗癌剤の動注や化学療法、手術、その他の治療に効果のない症例に対しては中性子捕捉療法などの高度な医療を行っている。これらの疾患を治療するため、詳細な検査など研修医に習得さすように指導している。
(耳鼻咽喉科)

・ 《1 年目～3 年目》

当科スタッフの直接指導下で、単純 X 線写真、CT、MRI の読影診断および IVR 手技の習得など臨床能力の向上を図る。まずは全身を診ることができる放射線科医としての能力を確立することを目指す。読影トレーニングはオンラインレポートシステムを使って、指導医のダブルチェック体制で行う。IVR 手技も指導医のもとで行う。この間に核医学診療部と放射線治療部をローテーションすることも可能である。3 年間の研修後には放射線科専門医の取得が可能である。希望者には研究活動を行うことも推奨している。国際的視野に立った研究指導のもと、国際学会に参加して成果を発表し、海外研究者との交流や共同研究を行うこともできる。

《4 年目～5 年目》

放射線科専門医取得後、この 2 年間では、各臓器またはモダリティーによる専門性を持つべく、各人が興味を持った領域においてさらなる専門的研修を行う。希望により臨床各科への後期ローテーションも可能である。この 2 年間の研修が終了すれば放射線診断専門医試験の受験が可能となる。この間（この後）、大学院へ進学して学位を取得したり、国内/海外研究施設への留学も可能である。

(放射線科（画像診断）)

・ 外部照射においては、一般的な三次元原体照射に加え、定位放射線治療、強度変調放射線治療、全身照射などの特殊治療も実施しており、日常診療を通じてこれらの治療の研修が可能である。小線源治療においては、高線量率イリジウム線源を用い、代表的疾患である前立腺癌・子宮頸癌の他、頭頸部癌や乳癌に対する治療も経験・修得できる。

(放射線科（治療）)

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	(届出標榜診療科)	役職等	経験年数	特記事項
井上和彦	総合診療科	内科	副部長	29年	
山口佳之	臨床腫瘍科	腫瘍内科	部長	32年	
荻野隆光	救急科	救急科	部長	26年	
大倉宏之	循環器内科	循環器内科	副部長	25年	
岡三喜男	呼吸器内科	呼吸器内科	部長	35年	
種本和雄	心臓血管外科	胸部・心臓血管外科	部長	30年	
中田昌男	呼吸器外科	呼吸器外科	部長	30年	
柏原直樹	腎臓内科	腎臓内科	部長	30年	
宮地禎幸	泌尿器科	泌尿器科	副部長	24年	
杉原 尚	血液内科	血液内科	部長	35年	
亀井信二	糖尿病・代謝・内分泌内科	糖尿病・代謝・内分泌内科	医長	22年	
砂田芳秀	神経内科	神経内科	部長	29年	
八木田佳樹	脳卒中科	内科	部長	19年	
松原俊二	脳神経外科	脳神経外科	副部長	25年	
青木省三	心療科	精神科	部長	35年	
尾内一信	小児科	小児科	部長	34年	
川本 豊	新生児科	新生児内科	部長	30年	
植村貞繁	小児外科	小児外科	部長	34年	
下屋浩一郎	産婦人科	産婦人科	部長	28年	
紅林淳一	乳腺甲状腺外科	乳腺・内分泌外科	部長	32年	
藤本 亘	皮膚科	皮膚科	部長	33年	
守田吉孝	リウマチ・膠原病科	リウマチ科	部長	23年	
長谷川徹	整形外科	整形外科	部長	35年	
稲川喜一	形成外科・美容外科	形成・美容外科	部長	21年	
花山耕三	リハビリテーション科	リハビリテーション科	部長	28年	
春間 賢	食道・胃腸内科	食道・胃腸内科	部長	39年	
日野啓輔	肝・胆・膵内科	肝臓・胆のう・膵臓内科	部長	34年	
中村雅史	消化器外科	消化器外科、外科	部長	23年	
桐生純一	眼科	眼科	部長	27年	
原田 保	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科	部長	36年	
藤田喜久	麻酔・集中治療科	麻酔科	部長	35年	
伊東克能	放射線科(画像診断)	放射線科	部長	26年	
余田栄作	放射線科(治療)	放射線科	副部長	22年	
曾根照喜	放射線科(核医学診療)	放射線科	部長	31年	
通山 薫	中央検査部	臨床検査科	部長	11年	
定平吉都	病院病理部	病理診断科	部長	31年	
畑 毅	歯科・口腔外科	歯科、歯科口腔外科、矯正歯科	医長	30年	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・ 研修の主な内容 (別紙①のとおり) ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・ 研修の主な内容 (別紙②のとおり) ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・ 研修の主な内容 ・ 研修の期間・実施回数 ・ 研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

①医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況

対象	内容	期間	回数	参加人数
看護師	がん化学療法看護基礎	1日	2回	50人
看護師	埋め込み型ポート勉強会	1日	2回	34人
看護師	フィジカルアセスメント	4日	1回	38人
看護師	感染管理	1日	3回	39人
看護師	ストーマケア勉強会	4日	1回	8人
看護師	ストーマケア症例検討会	5日	1回	8人
看護師	褥瘡ケア勉強会	4日	1回	10人
看護師	脳卒中リハビリテーション	1日	1回	16人
臨床検査技師	院内輸血の現状と問題点	1日	1回	25人
臨床検査技師	新規導入された血液凝固装置CS-5100の紹介と導入効	1日	1回	29人
臨床検査技師	大動脈弁狭窄症について	1日	1回	27人
臨床検査技師	これだけは知っておきたい検査までの変動要因	1日	1回	36人
臨床検査技師	薬物中毒検査の現状	1日	1回	25人
臨床検査技師	一般検査フォトサーベイ	1日	1回	32人
臨床検査技師	尿管結石	1日	1回	32人
臨床検査技師	血液培養採取のタイミングにおける診療検査値の有用性	1日	1回	37人
臨床検査技師	ギランバレー症候群	1日	1回	37人
臨床検査技師	関節リウマチの診断基準と検査	1日	1回	31人
診療放射線技師	日本救急撮影技師認定機構 指定実施研修施設	2日	1回	数名
診療放射線技師	川崎学園診療放射線技師業務研修	3年	1回	6人
診療放射線技師	国公立大学病院医療技術関係職員研修(診療放射線技師)	5日	1回	1人
療法士	平成25年度認定言語聴覚士講習会(失語・高次脳機能障害領域)	3日	3回	1人
療法士	平成25年度認定言語聴覚士講習会(失語発達障害領域)	3日	3回	1人
療法士	第7回米国・フロリダ大学とフロリダ州立大学視察研修	9日	1回	1人
療法士	高次脳機能障害支援普及事業 高次脳機能障害地域支援ネットワーク中国ブロック協議会・研修会	1日	1回	1人
療法士	第1回自動車運転再開とリハビリテーションに関する研究会研修会	1日	1回	1人
療法士	新潟手のリハビリテーション研修会	4日	1回	1人
療法士	JMAP(小児評価)講習会	2日	1回	1人
療法士	職場適応援助者養成研修(ジョブメイト)	6日	1回	1人
療法士	平成25年度厚生労働省こころの健康づくり対策次長思春期精神保健研修「コメディカル専門研修」	3日	1回	1人
療法士	臨床に活かせる正常発達のまとめ ADL指導への応用	2日	1回	3人
療法士	肩関節の機能解剖と障害	1日	1回	1人
療法士	高次脳機能障害夏期研修	2日	1回	2人
療法士	BLS講習会	1日	1回	40人
療法士	吸引講習会(吸引手順・注意事項)	1日	1回	18人
療法士	義肢装具(適応と保険扱いなど)	1日	1回	30人
療法士	ME管理室(人工呼吸器・ベッド周辺機器)	1日	1回	27人
療法士	感染対策研修会	2日	2回	50人
療法士	ルート類の管理について	1日	1回	41人
療法士	輸液ポンプのアラーム対応について	1日	1回	46人
コメディカル全般	医療機器の安全管理体制確保のための各種研修(H26/1~H26/9)	1日	123回	1600人
栄養管理士、看護師、薬剤師	日本静脈経腸栄養学会NST専門療法士実施研修	7日	4回	37人
栄養管理士、看護師、薬剤師	日本病態栄養学会、日本栄養士学会NST研修	2日	3回	4人

②業務の管理に関する研修の実施状況

開催年月日	講師	演 題	主催等	備考	出席者数
H25.5.10(金) 17:30～18:30	澤原 光彦 松本 英男 小橋 吉博	「平成24年度リスクマネージャー<ワーキンググループ>の活動報告」(食事・IC・書類、手術・処置・損傷、輸血ワーキンググループ)	職員教育委員会 病院医療安全管理委員会	当院 病院医療安全管理委員会 リスクマネージャー	957
H25.6.27(木) 17:30～18:30	山地 康文 池崎 加奈子	「三豊総合病院の肺炎クリニカルパス」 「チームでつくる誤嚥性肺炎クリニカルパス」	職員教育委員会 院内感染対策委員会	三豊総合病院 内科 主任部長 三豊総合病院 看護師	1061
H25.7.11(木) 17:30～18:30	北村 道彦	「広げよう院内パス活動」	職員教育委員会 クリニカル・パス推進委員会 適正保険医療委員会	岩手県立中部病院 院長	758
H25.9.19(木) 17:30～18:30	①堀家 英之 山本 剛伸 川元 隆弘 ②和田 秀穂	①「平成24年度リスクマネージャー(ワーキンググループ)の活動報告」(器械・器具・医療材料、転倒・転落、内服・外用・注射 ワーキンググループ) ②「医薬品の不適正使用の防止について」	職員教育委員会 病院医療安全管理委員会 医薬品安全管理委員会	①当院 病院医療安全管理委員会 リスクマネージャー ②当院 医薬品安全管理委員会委員	963
H25.10.10(木) 17:30～18:30	河口 豊 藤井 哲英 東田 志乃	「当院におけるMRSAの現状について」	職員教育委員会 院内感染対策委員会	当院 中央検査部 主任技師 薬剤部 薬剤師 院内感染対策室 看護師長	1049
H25.11.8(金) 17:30～18:30	①貝川 恵子 ②松本 英男	①「当院の褥瘡対策の実態」 ②「明日のよき医療人を育成する川崎塾 —他職種連携による人材育成—」	職員教育委員会 褥瘡対策委員会 臨床教育研修センター委員会	①当院 褥瘡対策室 褥瘡管理者 ②当院 臨床教育研修センター 副センター長	816
H25.12.12(木) 17:30～18:30	①中塚 秀輝 高山 綾 吉田 耕治 ②和田 秀穂	①「医療機器安全管理委員会の活動紹介とご協力をお願い」 「除細動器&AEDについて」 「MRI検査を安全に行うために」 ②「当院における輸血療法の現状と課題」	職員教育委員会 医療機器安全管理委員会 輸血療法適正使用委員会	①当院 医療機器安全管理委員会委員長 当院 医療機器安全管理責任者 当院 中央放射線部 副主任技師 ②当院 輸血療法適正使用委員会委員長・輸血部長	897
H26.1.17(金) 17:30～18:30	保野 孝弘	「"共感力"に潜む畏、あなたも気づかず共感疲労！ いかにうまくお付き合いするか？」	職員教育委員会 サービス向上委員会 個人情報保護委員会	川崎医療福祉大学 医療福祉学部臨床心理学科学科長	761
H26.2.14(金) 17:30～18:30	和田 博知	「医療メディエーション～対立構造から対話モデルへ」	職員教育委員会 病院医療安全管理委員会	日本医療メディエーター協会 中国支部 事務局長	831
H26.3.14(金) 17:30～18:30	得居 みのり	一般病院で行う認知症ケア	職員教育委員会 認知症疾患医療センター運営委員会	姫路聖マリア病院 地域連携室長・老人看護専門看護師	734

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	病院長 園尾 博司
管理担当者氏名	病院事務部長 難波 徹

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		医療資料部	外来・入院診療録は電子カルテ X線フィルムはPACS（医用画像保管・配信システム） （※H21.12.31以前は紙カルテで保管）
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務部人事課 病院事務部病院庶務課	
	高度の医療の提供の実績	病院事務部医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院事務部医事課	
	高度の医療の研修の実績	病院事務部病院庶務課	
	閲覧実績	病院事務部医事課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	病院事務部医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院事務部医事課 薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項保各の号状及び第九條の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	院内感染対策室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	病院事務部病院庶務課	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	院内感染対策室
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	病院事務部病院庶務課
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	病院事務部病院庶務課 院内感染対策室
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	院内感染対策室
	各号及び第九條	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	病院事務部病院庶務課 薬剤部
	第二十三條	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	病院事務部病院庶務課 薬剤部
	第一項	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第一号に掲げる体制の確保の状況	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	病院事務部病院庶務課 MEセンター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	①. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部長 難波 徹	
閲覧担当者氏名	病院庶務課長 村上 進 医事課長 大塚 京子	
閲覧の求めに応じる場所	病院庶務課 (応接室)	
閲覧の手続の概要		
<ul style="list-style-type: none">・ 閲覧請求を受けた場合、諸記録閲覧申請書類に所定事項 (請求者の氏名、住所、連絡先等の情報、閲覧を希望する記録、閲覧の目的等) を記入いただく。・ 病院長決裁のうえ、閲覧に供する諸記録を準備する。・ 閲覧に供する諸記録の準備が整ったら、閲覧請求者に連絡し、閲覧日時を決め、上記閲覧の求めに応じる場所にて閲覧に供する。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 0 件
	地方公共団体	延 0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無								
<p>・ 指針の主な内容： 川崎医科大学附属病院における医療事故防止に係る安全管理の基準、規範となるべき事項を定め、解説して医療安全管理への取り組みの目的を明らかにするものである。</p>									
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 56 回								
<p>・ 活動の主な内容： ・ 川崎医科大学附属病院は院内の取り組みを統括する委員会として「病院医療安全管理委員会」を設置している。その下部組織として委員会として「リスクマネージャー連絡会議」を位置付けている。すなわち、各部門から選出されたリスクマネージャーでリスクマネジメントの具体的な実務及び、医師、看護師、その他各職員への情報公開を図っている。また、医療事故の発生事例に対処する「事故調査委員会」「病院医療委員会」を設置している。</p> <p>(1) 病院医療安全管理委員会：23 回開催 病院全体の立場から事故防止に関する諸問題を検討して決定する組織であり、以下の活動を行っている。 医療安全問題に関する現状の把握と院内情報公開に関すること。医療事故の予防と対策に関すること。安全医療を提供するためのマニュアルに関すること。医療安全管理の教育、研修と啓発活動に関すること。啓発活動としてニューズレターの発行、医療安全推進週間のポスター等の作成、医療安全カレンダーの作成。</p> <p>(2) リスクマネージャー連絡会議：11 回開催 病院医療安全管理委員会で審議された事項を通達し各部門に啓発している。 6つのワーキンググループを形成して定期的に会議（月1～2回）を行い、インシデント報告書のレビューを行う。インシデント報告内容については定期的にデータを評価する。再調査が必要な事例や、ニューズレターの原稿作成の基となる情報や職員への通達、啓発が必要な事項があれば各ワーキンググループから委員会議事録を持って医療安全委員会に要望・進言をする。ワーキンググループは毎月医療安全パトロールを実施し、年1回ワーキング活動の検証を行う。</p> <p>(3) 病院医療委員会：3回開催 医療事故発生への対処を適切かつ円滑に実施するために病院運営委員会の小委員会に対処方法に関する事項を審議する。</p> <p>(4) 事故調査委員会：12 回開催 (5) 医薬品安全管理委員会：1回開催 (6) 医療機器安全管理委員会：6 回開催</p>									
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 5 回								
<p>・ 研修の主な内容： ・ 医療安全の基本的な考え方及び具体的な方策について職員に周知徹底するため、平成25年度は次の研修を実施した。</p> <p>1. 「平成 24 年度リスクマネージャーWGの活動報告」平成 25 年 5 月 10 日開催 (検査・輸血 WG, 食事・IC・書類 WG, 手術・処置・損傷 WG)</p> <table data-bbox="347 1803 1332 1944"><tr><td>医師 175 名, 看護師 411 名, その他 371 名</td><td>計 957 名</td></tr><tr><td>DVD 視聴研修会 医師 88 名, 看護職 102 名, その他 39 名</td><td>計 229 名</td></tr><tr><td>DVD 個人視聴</td><td>計 593 名</td></tr><tr><td></td><td>総計 1779 名</td></tr></table>		医師 175 名, 看護師 411 名, その他 371 名	計 957 名	DVD 視聴研修会 医師 88 名, 看護職 102 名, その他 39 名	計 229 名	DVD 個人視聴	計 593 名		総計 1779 名
医師 175 名, 看護師 411 名, その他 371 名	計 957 名								
DVD 視聴研修会 医師 88 名, 看護職 102 名, その他 39 名	計 229 名								
DVD 個人視聴	計 593 名								
	総計 1779 名								

<p>2. ①平成24年度リスクマネージャーWGの活動報告 平成25年9月19日開催 (注射・内服・外用WG, 器械・器具WG、転倒・転落WG)</p> <p>②「医薬品の不適正使用の防止について」 医薬品安全管理委員会 医師 203 名, 看護師 390 名, その他 370 名 計 963 名 DVD 視聴研修会 医師 9 名, 看護職 153 名, その他 29 名 計 198 名 DVD 個人視聴 計 456 名 総計 1617 名</p>	
<p>3. 「当院の褥瘡対策の実態」 平成25年11月8日開催 医師 179 名, 看護師 338 名, その他 299 名 計 816 名 DVD 個人視聴 計 530 名 総計 1346 名</p>	
<p>4. ①医療機器安全管理委員会 平成25年12月12日開催 ・医療機器安全管理委員会の活動報告とご協力をお願い ・除細動器&AEDについて ・MRI検査を安全に行うために</p> <p>②輸血療法適正使用委員会 ・院内における輸血療法の現状と課題 医師203名, 看護師352名, その他342名 計 897名 DVD個人視聴 計 401名 総計 1298名</p>	
<p>5. 医療メディエーション〜対立構造から対話モデルへ平成26年3月14日開催 医師204名, 看護師291名, その他384名 計 831名 DVD個人視聴 計 456名 総計 1287名</p>	
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有) ・ 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容 : 	
<p>⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況</p>	<input checked="" type="radio"/> (3名) ・ 無
<p>⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況</p>	<input checked="" type="radio"/> (7名) ・ 無
<p>⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況</p>	<input checked="" type="radio"/> ・ 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (3) 名 兼任 (2) 名 ・ 活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 病院医療安全管理委員会と各部門から選出されたリスクマネージャーらと連携を図り、効果的具體案を検討し、要望、意見、質問に対して対応をする。 2. 患者の権利と安全の確保（患者の安全確保体制）、診療の質の確保（診療に係る安全管理の評価）と安全のためのケアプロセスについての評価や医療安全管理指針を文書で作成する。また、改訂について検討する。 3. インシデント報告に対するフィードバック機構の充実→毎日各部署の巡視、各部門とのコミュニケーションと現状把握。 4. 各部門とのコミュニケーションと現状把握、検証のために医療安全管理委員会やワーキンググループのメンバーで月1回の医療安全パトロール等の病棟・外来等の巡視を行う。 5. 安全医療を提供するための医療マニュアル（総論版、ポケット版、各診療科版）の改訂。 6. 医療安全に関する職員教育講演会、他研修会の計画、実施、評価。 7. 医療安全管理部の広報誌ニューズレターの一層の充実を図り、全職員の啓発活動を行う。 	

- | | |
|---|--|
| <ul style="list-style-type: none">8. 医療安全管理部の活動をホームページで紹介し、内容の見直しを行う。9. 医療安全推進月間の継続、毎年実施するイベントの計画立案とその実施。10. 新入職員に関する医療安全教育の計画立案および実施。11. 医療安全カレンダーを作成し、啓発活動を行う。 | |
|---|--|

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	①・無
--------------------------------------	-----

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	☑・無
・ 指針の主な内容： ・ 院内感染対策の基本的な考え方、院内感染対策委員会とその基本事項、研修に関する基本方針、感染症発生状況の報告に関する基本方針、院内感染発生時の対応に関する基本方針、当該指針の閲覧およびその他院内感染対策推進のための必要な基本方針について記載している。	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
・ 活動の主な内容： ・ 職種横断的に委員がおり、院内感染対策室の活動状況、ICTの活動、耐性菌の発生状況、抗菌薬使用状況、問題のある例などが報告され、協議検討されている。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年7回
・ 研修の主な内容： ・ 1回は外部講師により院内感染対策に関する講演会、2回は院内講師で薬剤耐性菌の基礎、標準予防策および感染経路別予防策について講演した。また中途採用者と未受講者を対象にした講演会を実施した。また、コメディカルの部署ごとに、それぞれに合わせた研修を実施した。	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (☑・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： ・ 毎週、院内の耐性菌発生状況が報告され、それによってICTのラウンドとは別に病棟ラウンドしている。またMRSAなど耐性菌の多い病棟や救命救急センターなどで、薬剤耐性菌に関するワーキンググループを作って活動している。	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">インシデントの多い項目に関する研修会 「眠前薬と転倒・危険薬剤」「薬剤を安全に取り扱うために」(全職員、H26. 2)新入研修医対象研修会 「医薬品安全管理」(研修医、H26. 4)職員教育講演会 「自動車運転等危険な作業に必要な薬剤について」 (全職員、H26. 9)	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">手順書の作成 (有・無)業務の主な内容：<ul style="list-style-type: none">手順書の定める内容に従ってマニュアルを作成し、業務を実施している。業務実施確認チェックリストを用いて、半年に1回、実施状況を確認している。医薬品管理チェックリストを用いて、病棟、外来処置室における安全使用を確認している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">医薬品安全性情報が発出された品目について、当該製剤を処方する診療科、医師に対して個別に情報を提供し対策を検討する。<ul style="list-style-type: none">ヤーズ配合錠 (H25. 8. 7 血栓・塞栓症で国内発の死亡例について) → 製造販売会社より産婦人科医師に情報提供チガソンカプセル (H25. 8. 12 服薬中止7ヶ月後に妊娠し、新生児に先天性異常) → 製造販売会社より産婦人科医師に情報提供 現在投与中の10名の外来患者については、次回処方時に文書で情報提供セルセプト錠 (H26. 4. 15 服用中の患者で先天異常児出産の報告) → 製造販売会社より、セルセプト錠を処方中の医師に情報提供ゼプリオン水性懸濁注 (H26. 4. 18 発売後半年間で21例の死亡例) → 特定患者のみの使用のため、主治医に安全性速報を配付、コメント取得院内で発生したインシデント報告は、医療安全管理部経由で注射・内服・外用ワーキングチームで対策を検討し、医療安全管理委員会に上申する。審議の結果は、リスクマネージャー連絡会議で報告され、各部署代表のリスクマネージャーを通して全職員に周知される。	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	㊟・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年145回 (2014. 9. 1現在)
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 新規に導入機器の研修としては、2014年9月現在：酸素療法装置ネーザルハイフロー、低圧持続吸引器、排痰補助装置（レンタル機器）、生体情報モニタほか、2013年：透析装置、人工呼吸器、ベンチュリーネブライザマスク、生体情報モニタほか、について実施・ 定期的な研修としては、2014年9月現在：除細動器、人工呼吸器、生体情報モニタ、補助循環装置、保育器など、2013年：除細動器、人工呼吸器、ペースメーカー、保育器、血液浄化装置などの使用方法、トラブル対応ほか、について実施・ 各部署からの個別研修依頼への対応・ 新入職員（看護師・研修医等）研修：除細動器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、人工呼吸器等	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (㊟・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ MEセンターによる中央管理機器（人工呼吸器、除細動器、保育器、血液浄化関連装置、体外循環装置、輸液シリンジポンプなど）・ 放射線関連機器については、診療放射線技師による日常点検、及びメーカーにて定期点検を実施	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (㊟・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 情報収集の方法 外部メーカーや業者からの入手、PMDA及び厚生労働省等からの入手（メール登録含む）、医療機器安全管理委員会及び病院医療安全管理委員会などの開催時における各部門からの報告による入手。・ 情報の周知方法 院内医療機器研修会および院内職員教育講演会（いずれも12月予定）等による従事者への情報提供（資料配布含む）、新人等に対する研修（4月～6月）も含む。 また、電子カルテ端末および院内電子掲示板を利用してMEセンターから職員へ周知、医療機器安全管理委員会及び病院医療安全管理委員会の定期的な開催による報告と情報収集、ニューズレター（医療安全管理部発行・隔週発行）回覧による職員への周知・ 自主回収の情報収集及び改善のための方策の実施 関係部署及び職員に通知文にて周知、および医療機器安全管理委員会を通じて報告周知など（血液浄化装置、除細動器、補助循環装置、放射線診断装置、医療材料等）	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	④・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 機関名：財団法人日本医療機能評価機構 時 期：2010年7月	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	④・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ・ホームページによる情報発信 ・患者向け病院広報紙、地域医療機関向け広報誌、医療機関および患者向けがんセンターニュースなどの発行による情報発信 ・上記方法により、地域の皆様、医療機関に対し、当院の役割、先進医療や高度な医療の実績などを広く公開している。 ・市民公開講座や医学講演会を開催し、最新の医療情報を発信している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	④・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・入院、外来患者とも院内他科紹介により、専門の医師が連携して最適な治療を提供している。 ・がん患者に対し、カンサーボードにて最適な治療法の検討を行っている。	